

同窓会設立10周年記念

# 同窓会誌

第6号

沼津工業高等専門学校同窓会

昭和51年

## 目 次

会誌第6号によせて	2～3
技術科学大学について	4
この10年間に活躍した顔ぶれ	5～6
歴代会長の挨拶	7～9
同窓会10年のあゆみ	10～14
支部だより	
愛知県支部	15
職場だより	
コータキ	15
同窓会誌に寄せて	15～21
会員	
開校記念日記念講演	22～28
「就職に対する心構え」座談会	28～29
慶弔報告	29～30
同窓会名簿の発行について	30
会費未納者へのお願い	30
お知らせ	30
同窓会会則及び細則	31～32
同窓会資料	
同窓会会員数	33
歴代役員一覧	34～35
同窓会業務日誌	36～41
同窓会設立趣意書	41
母校10周年記念総会への檄文	42
昭和42～49年度収支決算報告書	43～44
10年間の会則の変遷	45～52
おわび	54
編集後記	54

# 会誌第6号によせて

会長 白井 一夫

今年と同窓会設立10周年の年となりました。最初の卒業生である一期生の人達は30才になろうとしており、いよいよ職場や家庭においても中堅となろうという年代かと思えます。我が沼津高専同窓会も歴代の役員、理事、学校関係者の並々な御努力によりまして全国高専の中でも活発な方に数えられております。今まで同窓会のために協力されてこられた皆様方、本当にありがとうございました。

現在の構成は

会員数	1,328名
名誉会長(学校長)	1名
会長	1名
副会長	1名
事務長	1名
理事	38名
監事	2名
顧問	8名

となっております。

理事会は月2～3回午後6:00～9:00頃まで、時には11時頃までになることもあります。仕事を終えてから、しかも無報酬でのごとで理事の皆さんには本当に御苦労さまです。クラス担当理事の方には連絡事項の最後やハガキの隅っこの方に書いてあるちょっとしたはげましの言葉が大変うれしいものです。会員の皆様、自分のクラスの担当理事には時々、現状など何でも結構ですから、連絡してやって下さい。

現在の同窓会業務の主なものには5号の伊達前会長の言葉にもありましたように

- (1) 年1回総会及び懇親会の開催
- (2) 会誌及び同窓会だよりの発行
- (3) 名簿の発行、追補、訂正

等があげられます。

今年10周年ということで、名簿のしっかりしたものを作ろうということになりました。今まで学校側で作られたものがありますが、同窓会としてははじめてであり、理事会も今まで以上に活発に働かねばなりません。この名簿はフィラー形式にし、追補、訂正等は差替えればすむようにする予定です。なお有料と致しましたが、財源逼迫のため、御理解頂きたいと思えます。

そんな訳で今年では会誌の発行をやめ名簿一本に絞ろうかと思いましたが、跡部君が非常に熱意を示したので、それならばということで、皆で役割を決めそれぞれのsectionで努力してもらうこととした。名簿は久保田君、会誌は跡部君にそれぞれ編集委員長になってもらいこの忙しい時期を乗り切ることとした。今後共一つの行事に対し、責任者を決め、その人のもとに結集していくというやり方で進めたいと考えています。

現在同窓会運営の課題と致しましては、次のようなものがあります。

- (A) 財源を確保する
- (B) 支部の結成を推進する

(C) 理事会の回数を減らし、理事の負担を軽減する

財源の確保につきましては、会員の皆様の御協力を切にお願い致します。郵便料金や諸物価値上がりの影響により、今後苦しくなることが予想されます。新入会員の方には卒業時に終身会費として払って頂くよう説明会等を開いてPR致しておりますが、未だ終身会費未納の方には重ねてお願い致します。今後の督促に対し、未納を続けられる方には、会誌その他の発行物等に支障をきたすことが考えられます。

支部につきましては、現在正式には愛知県支部があります(支部長田原成人)。浜松はあと一歩というところまでになっています(責任者田中昌一)。他の地域におかれましても、ぜひ早急に発足して欲しいものです。本部と致しましても、積極的に支援したいと思っております。10周年の名簿を参考にしてぜひ新たな支部が誕生することを願っています。

(C)につきましては、特に万年理事に近いような方には、負担は大変なものなので何とかしたいのですが、どうにもならないのが現状です。同窓会のあり方や財源の問題、クラスに近在する人がいない等の問題とも関連してきて、同窓会が完全に軌道に乗るまで続きそうです。しかしながらパートタイマーのような人を雇えばもっとスムーズにそして負担を軽減できると考えます。

今後検討を要するところであります。

その他、今後やりたいものとして次のようなものがあります。

(イ) 会員の現状を数値的に把握し、一見してわかるようグラフ化する。例えば、会員数の都道府県別分布状況、職業別状況、企業規模別分布状況等。

(ロ) 在学生に対する同窓会のPRをする。

(ハ) 支部連絡会的なものを作る。

(イ)につきましては、早速10周年記念名簿の付録として1期～9期までの都道府県別分布状況を載せたいと思っております。理事の小川君が電子計算機を駆使して集計中です。このような同窓会資料となるものを、今後一つ一つ積み重ね、会員の皆様に現状が一見してつかめるようにしたいと思えます。また図書室の同窓会コーナーに置くことにより、在学生の就職等に役立てるものと思えます。

(ロ)につきましては、前三役の時より卒業直前1回、同窓会に関する説明会を開いて、協力を呼びかけてきました。今後は説明会の内容、方法をもっと工夫して、さらに理解を深めさせるよう努めたいと思えます。

(ハ)につきましては、まだ具体化できる支部の数が少ないので、できませんが、近い将来実現できるような働きかけていくつもりです。会員の皆様に御協力を乞うところであります。

また今年のはじめて、学校が就職指導の一環として、卒業生と在学生との懇談会を計画しました。同窓会としても沼津近辺の者で、都合のつく卒業生16人が協力致しました。それぞれ就職してからの貴重な体験等を話され、在学生の就職に対する参考になったものと思われまます。今年だけでなく今後もこうした試みが計画された場合には、いろいろな方に参加して頂きたいと思えます。

以上のような訳で我が同窓会も軌道に乗りつつありますが、まだまだやることは沢山あります。また理事のうち1期生の占める割合が多いのですが、これからは2期、3期以下の人達を中心に運営していけるような雰囲気作りをして、3役をゆずっていきたいと思えます。会員の皆様には同窓会誌等を交流の場として、もっともっと親睦を深めて頂きたいと願う次第です。

これからも会員の皆様方の積極的な御協力のもとに、沼津高専同窓会が確固たるものになるまで、微力ながら努力したい所存です。

## 技術科学大学について

### 名誉会長 樋口 泉

1 先般、新旧の同窓会役員諸君と懇談中、技術科学大学院が大学に変更になったことに失望しているとの話が出て、説明したのであるが、そのような受取り方は一般にもあり得ると考えられるので少しく変更の事情を述べることにする。

日本の教育の基本を規定する法律、学校教育法では大学院だけの大学設立は認められていない。昨年度、技術科学大学院をつくるために、まずこの法律の改訂案が提出されたのであるが、審議過程中に若干異論が出て法案は審議未了になり、したがって大学院設立案も流れてしまった。それで学校教育法を改訂しないですむ技術科学大学構想ができたのである。名称は大学に変更したが、主として工業高校卒業生を1年生に受入れるために定員が20%減少することになったほかは、内容的には前の大学院案の本質はそのまま生きているので、名称変更にはあまりこだわらなくともよいのではないかと思う。その証拠として次の3点を挙げるができる。

- a. この大学は53年4月に、1校当り1年生60名、3年編入生240名が同時入学する予定である。編入生というのはいわゆる傍系的な感じがあるが、この学校では数の上から見ても編入生が主流である。
- b. 普通の大学では1年生が入学して学校が始り、これが3年生になるときに編入生が入るはずのものであるが、この大学に限って1年と3年生が同時に入学することに注目して頂きたい。したがって仮校舎等では教育はできないので、研究棟、講義棟等の施設、設備がほぼ整った後に開校されるので準備のために2ヶ年が見込まれている。
- c. これまでの国立新大学では卒業生が出て後に、卒業生のほぼ20%程度の定員をもつ大学院を付置するか否かを審査されることになっているが、この大学は前例と異なり、はじめから修士課程設置が決定しており、かつ卒業生全員を受入れる定員になっている。これは東大にもない特別な性格のものである。このことの含意するところは、恐らく学士の免状も授与されると思うが、入学する学生全員に大学院に進むことが期待されていることを如実に示すものである。

以上のことから名称は変更されたが、当初の大学院

構想の本質はほぼ生きていると考えてよいと思う。

2. 前号でも述べたように、先進工業国における技術者教育では大学院教育が非常に重視されるようになってきている。1974年の統計によると、本邦の工学部卒のほぼ8%が大学院に進学しているが、高専教育の理念を発展させることになっているこの技術科学大学2校だけでも、高専卒業生の6~7%が大学院教育を受けられることになるのは実に喜ばしいと思う。まだ非公式情報ではあるが昭和55年に大学院が付置されるときには、一度社会に出て2~3年以上の現場経験をもつ高専卒業生にも入学の機会を与えることも検討中とのことである。これが確定すれば、同窓会員諸君にも即報といえるのではあるまいか。問題意識をもって再学習できることの意義は大きいと思う。

3. 永井文相が高専教育に対し高い評価を示されたことは前号で述べたところであるがこの新大学法案についての議会における文相説明により、野党側にも高専教育に対する理解を高める結果になり、全会一致で法案が成立したばかりではなく、大学設置法案に対し「高等専門学校についてもその充実のために一層の研究、検討を加えること」という異例ともいえる参議院の付帯決議がなされたのである。また非公式の席ではあるが野党の衆院文教委員からも更に2~3校技術科学大学をつくれとの激励もあったよしである。これが直ちに全政党的政策になるとは言えないかもしれないが、数についてはまず2校で発足し、その後の社会の受入れ状況によっては数年後に第3第4の新大学設置の可能性も生ずるかと思う。私は野党の政治家にも高専教育に対する理解が高まったことを聞いて感銘を受けたのである。伝え聞くところによると高専発足時には野党側は教育体系の複線化に対して比較的冷淡であったとのことである。前号で述べた高専教育の消極的多様化への反発のためかも知れない。しかし積極的な高等教育多様化の先駆的な実績に対する理解が進めば、政治、イデオロギーに関係なく高専教育への評価は高まるものと確信することができる。

教育は本来、政治に中立であるべきであるから、戦後の不幸な経過が解消されて、高専教育への国民的理解の高まることを期待したいと思う。(1976. 6. 22記)

## この10年間に活躍した顔ぶれ



木ノ内倫弘(M1)

S. 42年度 会長  
S. 43年度 会長



小池 洋三(E3)

S. 44年度 副会長  
S. 45年度 会長



鞠子 誠(M5)

S. 46年度 副会長  
S. 47年度 会長  
S. 48年度 会長



村松 正敏(E1)

S. 42年度 副会長



加藤 昌裕(E4)

S. 45年度 副会長  
S. 46年度 会長



風間隆太郎(M4)

S. 46年度 事務長



細井 道泰(M2)

S. 43年度 副会長  
S. 44年度 会長



大地 喜久(M3)

S. 45年度 事務長



中村 誠一

S. 47年度 副会長  
S. 48年度 副会長



水上 重徳

S. 47年度 事務長  
S. 48年度 事務長



伊達 忠昭

S. 49年度 会長  
S. 50年度 会長



島村 俊

S. 49年度 副会長  
S. 50年度 副会長



跡部 恵一朗

S. 49年度 事務長  
S. 50年度 事務長



白井 一夫

S. 51年度 会長



久保田 豊

S. 51年度 副会長



神山 始佳

S. 51年度 事務長

## 歴代会長の挨拶

### 同窓会設立時を顧みて

初代会長 M1 木ノ内倫弘

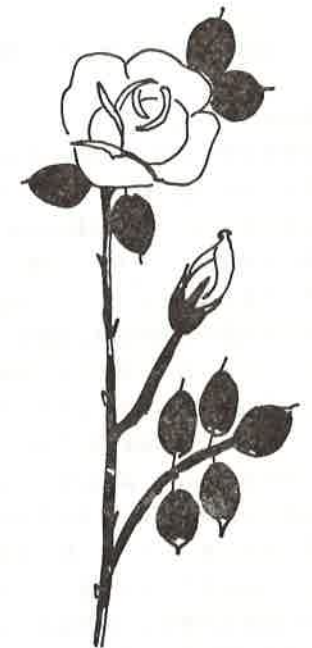
「沼津近辺に就職するもので、あまり利口ではなく、与えられた仕事だけではどうやら遂行する人間」というのが同窓会長としての最適条件であるらしい。そのような訳で私が同窓会長という大役(?)を仰せつかったのはまだ紅顔りしい昭和42年の3月であった。勿論同窓会といってもまだ何の組織もある訳でなく、在学中に準備された同窓会会則案だけであった。この会則案は機械科の組岡教官の指導の下、M1白鳥君等の努力の賜であった。そこで早速組織作りをすべく役員の方々、顧問教官の方々との話し合いが積極的に進められ、42年8月には早くも会員名簿の作成配布、10月には当時の土井校長先生に同窓会への学校当局の全面的な協力方を依頼、了承された。更に翌43年1月には懇親会開催、4月には同窓会誌創刊号を発刊、6月には第一回総会を開催と息つくヒマもない程の同窓会活動であった。まだまだ学校出たての若僧にはむずかしい事ばかりでいろいろな方面に多大の御迷惑をかけつつも何とか任期の二年間を務めることができたのは、当時の役員の皆様方及び母校教職員の皆様方の絶大な御協力のおかげである。10年の歳月を経た今日、改めて皆様方の御協力に対し、その大きさを認識すると同時に本誌上を借りて厚く御礼申し上げます。

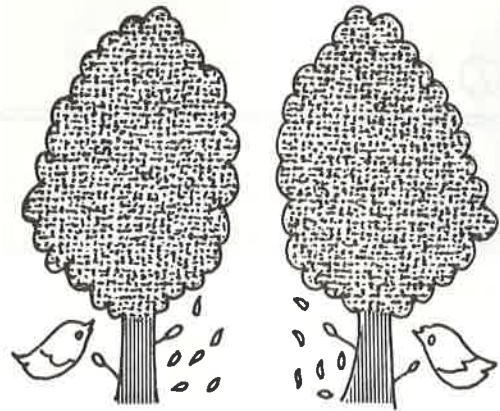
一年一昔とはよく言ったもので詳しい事は忘れましたが、財政難で会員への配布物は全て母校の手を借りて行なったり、会議費などは時々役員の方のポケットマネーで調達したりした事等なつかしく思い出されます。

そして昨今の同窓会活動を見る時、本当に立派になったなあという感じがします。ここまで築きあげた歴代役員を始めとする会員全員の努力を評価すると同時に更に前進すべく共に頑張ろうではないか。微力ながら今後共同窓会発展の為に協力し、同窓生諸氏の笑顔を見れる事を期待しつつ欄筆させていただきます。

〒410 沼津市山王台11-12

第2代会長M2 細井道泰君の原稿は本人の都合で頂けませんでした。





## 同窓会設立十周年 に寄せて

第3代会長 E3 小池 洋三

十周年おめでとうございます。  
最近の活発な同窓会活動や、役員の方々の御努力をみておりますと、私が会長の職務を任されていた期間は活動らしい活動は何も行わず、仕事の大半を残してしまい、能力と努力が足りなかった事を、ただ恥じるばかりです。  
明電舎に入社して以来、主として、サイリスタを応用した各種の電気品の試験や設計に従事してきました。  
初めのうちは既に技術の確立された機種を担当してきましたが、最近、省エネルギー、メンテナンスフリーを目標とした、無整流子電動機を使用した、速度制御システムの新製品を担当し、計画段階ではコストと性能の接点の見出し、試作段階では生産技術上の問題の克服、販売段階ではユーザーへのPR、納入後はクレームの処理（現在クレームでたっぷり油をしばられています。）と、次々に問題点が発生し、新製品ならではの、生みの苦しみを十分に味わってきました。  
これも同窓会で生みの苦しみを次年度の方々に押しつけたむくいではないかと、反省しています。  
新製品はオイルショック以来の、電気料金や人件費の高騰から、ユーザーサイドからも省エネルギーという面から設備を見直す機運が高まり、今後に大いに期待しています。  
メーカーでの仕事を続けていると、担当機種に関する知識は深められていきますが、他の業種に関する知識は

雑誌に頼るだけで、核心をついたものにふれる事が出来ません。このことは技術屋、全員が悩んでいることではないかと思えます。

同窓会の活動の中で、会員が集まり、互いの知識や経験を連絡出来る様なシステムを作り上げていく事も、今後の目標の中に加えて頂きたいと考えています。

今後の活動を楽しみにしています。

〒410 沼津市八幡町13

## 同窓会活動に思う

第4代会長 E4 加藤 昌裕

文の最初からおかしいと思うが、何人の人がこの文を読むだろうか。私は少し疑問を感じつつ書き始めてます。もし私に国語の教科書のような同窓会誌や人名や住所の羅列されている会員名簿が送られてきたら、はたして隅から隅まで読むだろうか。たぶん興味のひかれる題のついた文か知っている人の書いたものしか読まないで、あたかも新聞を読むようなものではないかと思えます。

第三者的に同窓会を離れた気持ちで考えるとこれらは百科辞典や新聞のようなもので、日常生活には必要性が全然感じられないと思う。そのため同窓会の当事者の側からみた場合、その必要性に誰もが疑問をもつのではないのでしょうか。そして、その作業（名簿の作製や会誌の編集）はやっかいで非常に地味であるため、そういった懐疑をいだきがちになるのではなからうか。

しかし、この地味でやっかいな仕事は誰かが継続してやらなければならないと思う。なぜなら私は各会員にとって新聞や百科辞典の価値しかなくともいつか必要になるだろうと確信しているからである。ヤブニラミ的に同窓会誌と名簿について一考してみました。

さて、一転してしまいますが、最後に十周年を迎え、同窓会も一年毎に大きくなっていきますが、より以上に会員に楽しめ、会員の積極性のあらわれるような同窓会に発展するよう願ってペンを置きます。

〒411 静岡県駿東郡長泉町下土狩1116-85

## 「同窓会十周年に想う」

第5代会長 M5 鞠 子 誠

沼津高専同窓会が、発足して以来、今年で10周年を迎えましたが、私が、同窓会々長を務めたのは、今から5

年前の、47・48年度の2期で、同窓会の活動内容も、よく知らない若輩者が会長という大役を、務めることになり、まず、何から手をつけるべきか、わからず雲を、つかむような状態でした。

その頃の同窓会の内容という、会則の不備、会費の未納、名簿の不備というより名簿もなく、会員の親睦の機会もない有名無実的な存在でした。

我々、本部にしても、理事会を招集して、活動を細々と、はじめましたが、議事が、あまりスムーズに、進展せず、学校のゼミ室などで、よく全員で顔をつきあわせては、お茶など飲んで苦慮していました。

このような状態が、1~2ヵ月続いた頃、学校側の多大なる協力が、得られました。というのは、同窓会顧問教官、職員の任命があったのです。

今まで同窓会活動を、よく知らなかった我々理事に対して、他校の同窓会の紹介、同窓会の存在意義などを、話してもらっていくなかで、とにかく、我々第5期同窓会本部は、学校、顧問教官に、おんぶするかたちで、本格的にスタートしたわけです。

手はじめの仕事としては、会則の改正、会費未納分の徴収からはじまり、総会の開催、同窓会だよりの発行、それに加えて、なによりも同窓会にとって、忘れてならないのは、学校よりの同窓会名簿の発行がありました。名簿1つとっても、同窓会に対する学校の多大な協力があつた事は、会員諸兄には、おわりの事と思います。

あのゼミ室時代の活動を、思い起こすと、郵送用の宛名書き、総会準備等、何をやるにも、はじめてというわけで、いろいろと苦勞した事が、多かつたのですが、会員の皆様に多少の迷惑をかけながらも同窓会の意義を、理解していただいた事で、役員、理事一同なんと任期を務め上げたと考えています。

現在、同窓会も会員諸兄の協力により、10周年を迎えることができ、同窓会の運営も、軌道にのってきましたが、会員の数も増えてきて、運営上の問題がないとも、言い切れませんので、今後の同窓会の発展の為に、今以上の会員の皆様の御協力を、お願いします。

最後に、我々、第5期同窓会役員、理事を代表しまして、同窓会の基礎作りに、尽力、下さいました、学校教職員、顧問教官、先輩の方々に、お礼申し上げます。

〒412 御殿場市中山544

## 2年間の収獲

第6代会長 M1 伊達 忠昭

3年前の暮の事である。  
我々の同級生であり、同窓会の顧問教官でもある柳下君の一声で沼津周辺在住の一期生が20人近く集まった。

その場で「同窓会を更に発展させる為、次期3役を一期生の中から選びたい」との提案があった。

私は事前にこの話を知っていたが、自分に押しつけられるなどは夢にも思っていなかったので安心して聞いていた。

自分はそんな大役のできる人間ではないという自信があったからである。

ところが適任と思われる者は皆「俺は……があるからダメだ……」等でどうしても引き受け手が決まらない。その内「伊達やってみろ」と誰かが言い出したと思つたら反論する間もなくワウッと決つたような雰囲気になつてしまつた。自分は引き受ける気などさらさらなく、その場は引揚げたが次の日には母校内で「次期三役は会長伊達、副会長島村、事務長跡部に決定」と広報され、無言の圧力に依つて無理やり引受けさせられるハメになつてしまつたのであつた。

幼少の頃より口下手で気が弱く、組織運営など全く未経験の私は当然の如く、最初の内はまともな運営などできる筈がなかつた。理事会の議長もなかなかうまくできず役員の皆さんに迷惑をかけた事も多く、自分自身が恥をかき事も多かつた。

投げ出したくなるような時も多かつた。しかし選ばれた方はどうであれ、自分が選ばれた以上はやらなければ自分の名を汚す事になる。

それに、一緒に頑張ってくれる役員の皆さん、更に母校教職員の方々の温い目を意識すると頑張らざるをえなかつた。

幸いにも副会長の島村君が組織運営の経験が豊富な上、口八丁手八丁でまごつきがちな私をよく助けてくれ、又事務長の跡部君も地味な仕事を見事に処理してくれた事にも助けられて何とか2年間の務めを果たす事ができた。

1年目は人前で話すような予定があると数日前からその事ばかり考えて気が重くなったものであつたが、その最後の機会である今年の卒業祝賀会での挨拶が終つた後は安堵感と共に、人前で話をするのが少しも苦痛でなく、むしろ楽しいぐらいの感じになるまでに自分の気持が変化した事に自分自身で驚きを感じたのであつた。

又、組織の運営、或いは人のまとめ方等についても随分多くの勉強をさせてもらった。

「この自分自身の変化」と「貴重な経験」が私の2年間の収獲であり、私の今後の人生に大きなプラスとなる事は間違いない。

最初は無理やり与えられた機会ではあつたが、2年過

ぎてみるとこれは非常に幸運な事だったと感謝しなければならぬ。

これも全て私のような人間を2年間支えてくれた島村君、跡部君、各クラスの理事の皆さんと母校の教職員の皆さんのおかげだと思う。ここで改めてお礼を申し上げたいと思います。

〒419-01 田方郡函南町塚本445

## 同窓会10年のあゆみ

会誌編集委員長

跡部 恵 一 朗

胎動

おとそ気分もまだ抜け切らない昭和42年1月、ようやく卒業見込の立った(?)私達1期の学生は、先生方より、卒業前に同窓会設立の準備をしておくよう、示唆された。

そこで、卒業アルバム、卒業文集の編集・制作にたずさわる者を除いた中から、比較的ヒマ且つ有能(?)なM1白鳥哲夫君や私(M1跡部恵一郎)など数名が選ばれ、同窓会設立準備委員会が発足した。同窓会役員は持ち廻りでやろう——準備委員は将来とも同窓会役員を勤めなくともよろしい——等の条件を作ったので自薦他薦の立候補者数名があって、準備委員はスナリと決まった。もっともこの時の約束を、後日反故にされてしまったメンバーもいる様だ。

他校同窓会の規約等を参考としながら、我が同窓会の構想を練り、3月の下旬には巻末の資料にあるとおり、同窓会設立趣意書、同会則案、同役員予定者、同窓会発足までの手順が作成され、5年生全員に配布された。配布された原案は各クラスごとに討議され、全員の賛成を得て同窓会発足の準備が整った。

なお余談であるが最初、M1吉田国昭君を会長に予定していたが、地元への就職を止め、進学することになったので、M1木ノ内倫弘君にお鉢が廻ったのである。

卒業後に同窓会結成大会を行うことが時間的にも困難なので、卒業生が生れると同時に自動的に同窓会が発足するように手順を決め、あとは卒業式を待つのみであった。



誕生

昭和42年3月20日には第1回卒業式が行われ、ここに

晴れてM1木ノ内倫弘君を会長とする沼津工業高等専門学校同窓会(正会員数120名)が呱呱の産ぶ声をあげたのであった。

昭和42年6月に第1回役員会を開き、活動方針について討議し決定した。そして同年8月には母校事務職員の協力を得て同窓会員名簿を作成配布することが出来た。

同窓会発足後、私生児(?)のままであったが、同年10月に母校校長と懇談し、まだ1人歩きできない同窓会に対する母校の御協力を頂くよう要請してこれが了解され、同年11月22日に母校運営委員会に於いて正式に本同窓会が認知されることとなった。

設立当初は、役員は新入社員として研修実習等で仲々集れず、役員会開催自体もスムーズでなかった上、同窓会というものの運営にも慣れず、役員一同困惑したものである。

昭和43年1月2日に、第1期生(M1・E1)懇親会が静岡市内「魚磯」で開かれ、卒業生120名中48名が出席、恩師7名を迎え、盛大に行われた。9ヶ月振り顔面を合わせた同窓生達、フレッシュマンとしての、或いは高専卒のバイオニアとしての悩み、苦しみ、喜び等、懐かしさも混じって話は尽きなかったものである。

同窓会設立に当たっての申合せにもあるとおり、初年度の開催は見送り、翌昭和43年6月23日、午後1時より母校会議室に於いて正会員53名を集め、第1回昭和43年度同窓会総会が行われ、1年間の同窓会運営から見直しが行われていた会則の全面改正がされ即日施行された。又、昭和42年度収支決算報告、昭和43年度収支予算書が承認された。この時、同窓会誌創刊号が発行された。

同年9月には同窓会誌2号を発行すべく原稿依頼を始めたが、会員からの原稿が思うように集まらず、発行日を44年度早期に延期したものの結局45年度に至って会誌2号発行を断念せざるを得なくなった。

44年3月下旬には初代会長の最後の仕事として、母校事務部の御協力により「昭和44年度会員名簿」が発行された。

衰退期

昭和44年11月9日(日)母校会議室にて約50名の正会員出席のもとに第2回総会が開かれ、会則の改正が行われた。

新会則は支部制度、理事会運営制度などが盛り込まれ、同窓会活動も運営基盤が整えられて順調に発展するかと思われたが、残念ながら以後逆に次第に活動は衰退して、期待には沿えられなくなった。

45年3月30日(月)には、44年度決算報告、45年度役員案、支部設置等についての同窓会報告書が送られた。



同窓会誕生の瞬間(S. 42. 3. 20)

しかし、支部設置は実際には仲々進まず、有名無実の状態が続くのである。一つ、浜松方面のみ、同窓会本部とはかかわりなく、1期生の努力によって、支部的グループが育って来た。

仮死状態

昭和44年の会則改正で事務長が設けられたが昭和45年度、初代事務長にM3大地喜久君が就任した。昭和45年4月に第1回理事会が開かれた後、翌年9月まで同窓会は全く活動を停止するに至った。

当時の三役人事は、新卒業生を副会長に、翌年度に副会長が会長に持ち上ると言うローテーションを組んでおり、その為に三役は殆んど常に卒業後1~2年の会員で構成されていた為、勤務先の研修、実習、或いは業務都合による長期出張などで実質的に動けない人も少なくなかったようであった。

46年前半には母校の手により「46年度会員名簿」が作成された。

同年9月に漸く、46年度役員候補を決め同年10月の理事会で46年度役員を選出した。

46年8月には御存知の様に同窓会員であるM1柳下福蔵君が母校教官として採用され、これが有形無形に仮死状態の同窓会を蘇生させる契期ともなった。

47年3月からは卒業式当日に、新卒業生へ同窓会についての説明会を行い、同窓会のPR、理解をさせること

となった。

又、此頃より会費徴収方法について工夫を行い、卒業後の会費徴収はむずかしいので卒業時に終身会費を納めるよう、新卒業生はもとより母校学級担任にも御協力を仰ぐこととなった。

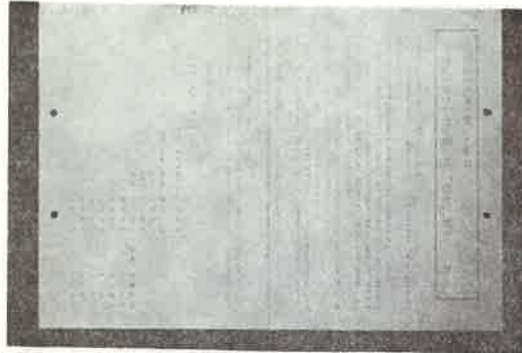
再建へ

同年3月下旬に47年度役員選出を行い、M5鞠子誠君を会長として新体制がスタート、精力的な同窓会再建活動が始まった。

47年は母校創立10周年を迎え、母校では盛大な行事が行われる予定である旨の話があり、新役員一同でこれに合わせて第3回総会を行い、同窓会再建をめざすこととなった。

3月下旬の理事会で、活動基本方針を決め、4月10日母校校長と懇談、同窓会への御協力を依頼した。以後の理事会では、総会日程と共に、盛り沢山となっていた会則も現実合せるべく、改正案を練った。同年6月には、市川顧問苦心の作である総会に向けての檄文を会員へ発送の運びとなった。総会当日二百数十名に及ぶ正会員が遠路駆けつけたのも、この檄文に感奮してとの巷のうわさである。

母校で10周年記念に作成した同窓生名簿を同窓会で頂き、会員へ配布した。これは退官された木戸先生が中心となって作られたもので、今回同窓会設立10周年記念同



第3回総会へ向けての概文

窓会名簿を手がけて改めて先生の御苦勞が偲ばれるものである。

母校10周年記念行事に合せ、同年11月3日に、実に3年ぶりの待望の総会が母校学寮食堂に於いて開かれ、前記正会員及び、特別会員（母校現職員教官・職員）、母校旧教職員合せて総勢300名余が集まり、沼津高専同窓会健在なりとの感を抱かせた。総会では会則の改正が行われ、ほぼ現行会則の体裁となった。なお、この時の改正で、新しく入会金制度が設けられ、50年2月の会費制度改正まで続くのである。

ついでながら、鶏が先か卵が先かは永遠のナゾであるが、こと同窓会の会費納入状況はハッキリしている。即ち同窓会が活発に動いている時期は自然、会費納入もはかどるものである。芳しくなかった我が同窓会の会費も、この総会を契機として集まるようになった。この事は、今後、肝に命じておく必要がある。



第4回(昭和48年度)定期総会

同窓会の窮状を伝え聞いた母校父兄会（現教育後援会の前身）では、翌昭和48年1月、同窓会基金として10万円を寄せたいとの申し出があって、理事一同、快よく応じた。それは、非常に心強く感ずると共に、在校生を持つ父兄の、同窓会即ち我々先輩に対する期待、信頼、それに対する責任感に身の引き締る思いをしたものである。

2月に入ると共に、同窓会だより（記録不明につきハッキリしませんが、第2号に当ると思われる）発行の準備

がなされ、3月20日の卒業式には、新卒業生（即ち新同窓会員）に配布された。この後、会員にも発送されたことは言うまでもない。話が脇道にそれるが、当時、一寸したものを送るにも900名分にも及ぶ宛名書きに、理事一同、テンテコ舞いさせられたもので、この仕事から解放されるのには、ベトコンの登場ではなく、M1小池龍三君の主宰する JAPAN COMMUNICATION が同窓会の印刷業務を引受けてくれる昭和49年を待たなければならなかった。

昭和48年2月には前年の試みを更に一步進めて、卒業試験を済ませた卒業予定者に、同窓会説明会を行い、同窓会に対する理解を深めさせることとした。卒業式当日のあわただしさと違って効果は大きく、この形が以後定着した。

4月に入ってから理事会で48年度活動計画・新理事の確認を行ったものの前年度に活躍し過ぎたせいお息切れがして、同窓会だより発行について審議したものの48年度中の発行は断念されてしまった。

この年、9月某日、母校教官でもある柳下福蔵君から折入って相談があるとの話で沼津近辺の一期生数名が小生宅に集められ、婚約発表の記者会見と思いきや同窓会の現状をどう思うかから始めて、とうとうM1、三人で49年度の同窓会の面倒を見ることを承諾させられてしまった。この辺の裏話は、第4回昭和48年度定期総会での伊達忠昭君の挨拶でも触れられている。唯、私にとって不満だったのは、同窓会設立準備委員を勤めているから役員を免除される筈が、時効とされてしまったことである。

又、この年10月、病気の為、静養されていた故土井静雄校長に代り、樋口泉先生が母校校長に就任、同窓会名誉会長もそれに伴い交替となった。

年もあけた、49年1月中旬、定期総会だけは年度中にやらねばとの義務感から3月開催を計画、ようやく、3月16日、第4回昭和48年度定期総会が母校学寮食堂で開かれた。小雨の降りしきる中を百数十名の正会員及び特別会員（母校教官職員）、母校旧教職員合せて200名余りに及ぶ出席者のもとで役員改選が行われた。

#### 成長期

鞠子会長のもとで軌道に乗った同窓会も、第5代伊達会長に引継がれ、今までの会長よりは豊かな社会経験を持っているだけあって、着実に同窓会を育成していった。

新役員による体制も出来ない4月、前名誉会長である土井静雄先生が急逝され、その対応にとまどったものであった。



第5回定期総会(49. 10. 27)

4月中に早々と母校に顧問を決めて頂き、新体制作りもスムーズに運んだ。6月の理事会で役員連絡網を作成、49年度活動計画が練られ、監事の選任が行われた。又、三役打合せでは会費問題が検討され、総会迄に繰返し討議を重ねた末、財政基盤の確立の為には、終身会費の値上げ以外にはあり得ないとの結論に達し、おかげで現在同窓会設立10周年記念同窓会名簿を曲りなりにも出せる見通しもつき、一応所期の目的は達せられている。

48年度に発行出来なかった同窓会だより3号を9月1日に発行し、第4回48年度定期総会の報告とした。以後、第5回49年度定期総会の総会報告を同窓会誌4号で行った他は、秋の総会の報告を暮の同窓会だよりで報告するような慣例を作り上げた。

論議を呼んだ総会の開催時期もやはり秋に定着させた方が良くとの意見が理事会で大勢を占め、3月の第4回定期総会から7ヶ月後ではあったが、第5回49年度定期総会を10月27日に開くこととした。当日は149名の正会員及び特別会員（母校教職員）、母校旧教職員合せて200名余の出席者があり、ますますの盛況であった。総会では会則改正が行われ、前述のように会費制度の変更と終身会費の値上げが行われた。

総会後に同窓会だより第4号発行の準備を進めていたが載せるべき原稿も多いので長い間途断していた同窓会

誌を6年振りに発行することとした。但し、校正の手違いから第2号となるべきところ、同窓会誌第4号として発行されてしまった。古い会員の中には誤解を招いた向きもあったようである。

支部設置については年度当初より話し合われたものの、50年1月に愛知県支部が結成に漕ぎつけただけである。

2月に恒例となった卒業予定者への同窓会説明会が武道館で行われ、同窓会だより3号と、同窓会誌4号、会則を配布した。

50年度第1回理事会で50年度行事計画、慶弔規程を決め、母校中退で同窓会入会資格のある入会希望者に承認を与えた。なお、母校中退者で、同窓会入会資格のある方（会則第5条第1号にあるとおり、3年以上在籍した者）は、終身会費を添えて同窓会あて申込まれば入会の承認を与えますので申し出されるよう伝えて下さい。

5月中旬より同窓会誌5号発行の準備に入り、9月15日に同窓会誌を発行した。この時は、異色方面で活躍している同窓生を紹介し、会員の反響を呼んだ。

同年10月25日、第6回50年度定期総会を例年の如く、母校学寮食堂にて開かれ、126名の正会員と特別会員（母校教職員）来賓（母校旧教職員）合せて200名余りが出席、定例議案の他、51～2年度の三役予定者を選出し、次期体制へスムーズに移行できるよう配慮がなされた。





第6回定期総会 (50. 10. 25)

又、50年度より会計制度をこれまでの官庁会計～単式簿記から非常利会計～複式簿記に切替え、同窓会財政状態をよりの確に掴め、予算統制、資金運用に効果が上がった。

又、49年度総会は日曜日、50年度総会は土曜日に開かれたが、日曜日開催では地元、近在の出席者が多く、土曜開催は遠方の居住者の割合が増えるという具合で、夫夫一長一短があり、今後の検討課題でもあろう。

総会報告を主とする同窓会だより第4号を年末に発行した。

明くる51年2月、卒業予定者への同窓会説明会が視聴覚教室を使って行われ、同窓会誌5号、同窓会だより4号、会則を配布した。



名簿編集委員会、校正風景 (51. 8. )

3月18日の理事会で、次期三役との顔合せの他、52年3月20日には、同窓会設立満10年を迎えることから51年度に10周年記念行事の一環として、同窓会名簿が発行されるものと想定、名簿発行の為の調査準備を開始した。名簿は51年度役員の手で発行されるべく現在鋭意印刷準備が進められ、10月に発行の予定である。

4月第1回の理事会で51～2年度の監事及び51年度行事計画が決められた。

5月1日、名譽会長でもある母校樋口校長と懇談会を持ち、同窓会への協力依頼他懇談を行った。

今年度、初めての試みとして、母校5年生と先輩との就職に対する心構えについての懇談会が行われ、これには同窓会としてもできるだけの協力をし、5年生には好評を博した懇談会であった。



母校5年生と先輩との懇談会 (51. 7. 3)

## 支部だより

### 愛知県支部

M2 田辺正幸

発足して2年目の愛知県支部、今年も1月31日支部の同窓会が、愛知の中心、知立市名鉄知立駅前「焼肉のハワイ」、市川、三ッ井両教官、同窓生26名の参加者で行なわれました。

やはり、久しぶりに会う先生、同窓生、昔話をしながら、飲み食い、いいもんですな。妻帯者も増え、今年5月に田原支部長もゴールイン、話題の中心がだんだん子供の話がふえていくのでは？

職場における高専卒、愛知県支部を見るかぎり、グー。「人からのよい、優秀な技術者となって世の期待にこたえよ。」初代校長、井形先生の御言葉のように、人からのよいだけを忠実に守り（優秀な技術者、世の期待にこたえているかは、他人が決めること）、明かるい連中ばかり。雄大な富士の裾野で学んだ沼津高専生、おおらかに今後とも生きようではありませんか。

愛知県支部は毎年一回、飲み会を開き、細く、長くをモットーに活動しているが、沼津から遠くはなれた地区も、同じかまの飯を食った仲間と、昔話（臨海寮玉々教、便所のユウレイ、高専スタイル）など、同窓会支部を作ったらいかがですか。

最後に支部長より、愛知県支部員に、支部会員名簿、作成を予定しておりましたが、本部で全会員の名簿を刷新して発行するために、支部のみの名簿の作成は中止し、本部の中に組み込むことにしたとのこと。

〒475 半田市境内町36

## 職場だより

### コータキの四天王？

コータキ E1 鈴木恒男

コータキ(株)といっても機械工学科卒の人以外では知らない人が多いと思うので、概要を簡単に書いてみる。

当社は、駿東郡長泉町にあり、以前は上漕圧力機と称し、名前から察するように油圧プレスのメーカーである。

現在は名称も改め、プレス機械、及びその無接点制御盤の他にも、特殊な電子機器も製造している。

今、当社には、M1伊達、M2仁科、M3石川と私の4名の同窓生が活躍している。

各人の仕事内容を簡単に述べると。

伊達——成形機械部に所属し、主に半導体や工業用ゴム成形関係のホットプレス設計等を担当している  
仁科——大阪営業所に勤務し、関西方面の窓口となり、営業活動を行なっている。

石川——先輩と共に、アキシアルランジャポンの開発を行なう。現在、生産管理課所属。

鈴木——制御機器部に所属し、特殊な電子機器の設計等に携わっている。

ところで、設計等とわざわざ書いたのには理由がある。当社においては、受注生産を主としているので、仕様打合せ、見積業務も、設計担当が行なう場合が多い。そして、その仕様に基づき図面を引くのはもちろん、客先納入時には据付工事までも担当範囲に含まれることもある。そういうわけで、自分が担当した機種については、まず100%知ることになる。逆に言えば、自分は設計だから他のことは知らない、と言ってはられないし、又それはそれなりにやりがいのある事でもある。だから、一つの機械を完成した時には、充分な満足感を得られる事も多い。設計担当は概して私生活を若干犠牲にする位に、慢性の業務多忙といった状態が多いのが現状である。

最後に気になる待遇の点であるが、業績不振の為か、あまり良いとは言えない。しかし、明日の為にも今後も、尚一層の努力を続けたい。

〒410 沼津市下香貫島郷2667-1

## 同窓会誌によせて

### 寸評子(3)

M1 島村俊

本年3月をもって、同窓会三役の「おつとめ」を終り、シャバの空気を十分に吸えると思いきや、理事として残留、おまけに「寸評子」をシリーズで書けとキツイお達し、いやはやなかなかさばらせてもらえない。

普通なら「早二年」と言う所、我々は「やっど二年」と言う感じ。無事卒業とともに、「人もすなる結婚とやらを、我もして見んとて」して見たが、無精なおれにとつて、各行事や一家としてのおつき合い等なかなか大変で、自由が無くなってしまった。一応現在はきわめて健康的、文化的生活をよきなくされている。我が先輩木ノ内氏はすでに落ち着いたらしく、昔呼んでも来なかった理事会にヒョッコリ顔を出したり、ヒマな風である。早くあになりたいものである。

最近仕事が変わり、工場の計画グループで工場長のタイコモチをやらされているが、課名がなんと財務課と呼

ばれている。昔からドンブリカンジョウの好きなオレにとっては、かなり異色な課に入ったと思う。「マージャンの点数も数えられずに財務課か」とひやかされるが、「何しろ役満か満貫しか上がらないから必要ない」と反論する。ただし最後に「振り込んだら取る方が数えるさ」と言わなければならない所はかなしいことである。

世の中、ロッキード事件でさわがれているが、まだオレの所にはコーチャだクラッカーだか南京豆だかしらないがいっこうに届く気配がない。その内届くであろう。しかし寝ていて金がドカドカ入るのは実に良い商売だ。そういえば「アントニオ猪木」もこの間寝ていてガッポリかせいだ様だ。立っているのはボクサーで寝て果報を待っているのはファイクサーと言うらしい。我が某社は「ハイエナ」と言う暗号がそうだ。ドン欲にかせぎそんな名をつけられた。どうせならもっとドン欲にやればいいのに……。実にもうけそこなった。

今年と同窓会10周年記念で会も色々いそがしい。オレのネクタイ付の写真を載せるとか言うので、写真をさがしたが、ポートレートになる様なのは無く紳士のオレとしては、「ガクセン」とした。仕方なく跡部邸にワイシャツ、ネクタイ、背広の上着持参でかけた。やっこのことで写してもらったが、知る人ぞ知る彼の室、いつワイシャツが真黒になるかわからないし、バックに何が写るかわからないのでヒヤヒヤした。各人、どんな顔で写っているか楽しみだ。それにしても、もう10年たったのか。我々も30代に突入だ。

今年も同窓会の理事として、協力しながら一步一步輪を広げていこうと思うのでよろしく。

〒410 沼津市足高294-74 沼津鉄工団地内

## T.M生の日記から

M 6 匿名

某月某日

おれの同級生は、何んて冷淡なやつばかりなんだろう。卒業してしまえば、住所が変わると、へんな女と結婚（一部へんな男と）しようと、連絡ひとつよこさないんだから。

沼津の高専には、活発に動いている同窓会があるらしいが、役員連はたいへんなこった。

吉行淳之介 鞆の中身読了

某月某日

今年になってから、おれのまわりで結婚するやつが出

はじめた。

バイロンによると（孫引だが）

「すべての悲劇は死をもって終り、すべての茶番は結婚をもって終る」とのこと。

6月30日現在（これが某月某日）の、戦死者は以下の通り。公式、非公式に連絡のあったもの。高井、加藤利、夏目、石黒、金原。

ことわっておく。当方は不自由はしていない。

某月某日

雨。特に記すことなし。

## “近況報告”

M 7 小林辰夫

3年前の4月、トヨタ自工に入社。それから配属までの3ヶ月間は本社で研修。

早くトヨタの子になって下さいという教育。トヨタはメーカーなのですという生産ライン実習、昼・夜勤一週間交替という私にとってはハードなスケジュール。実習先は、鑄造関係のシェルモールドによる中子成形であり、その粉ジンドで鼻の中は常に真っ黒。顔も汗の上にそれが着くのでやはり真黒。この一ヶ月間白くなるのを忘れていたかの様だった。その為か、その黒さは今も抜けません。手は二重にも三重にも軍手をしているが熱い中子をつかむので真黄色。臭いは皮の焦げた臭いか、中子の臭いかで常に鼻をつくような悪臭が消えなかった。デリケートな私の体には少々、こたえるものでした。

それから最後一ヶ月間のセールスの実習。愛知県刈谷市内のテリトリー（セールスの縄張りの事）で毎日かけ走ったものです。期間が一ヶ月しかない為、まず顔を売るのが大変なものでした。憶病な私が誰が住んでいるか解からないような家の玄関をたたき、「コンニチワ！カローラ中京の者ですが……。ところでお宅の車、もうすぐ車検の様ですが、お買替の御希望ありましたらと思ひましてお伺いしたわけですが……。」今の車を調べ、こうして一軒一軒まわっていくのではあるが、おせじは過ぎてもイヤミになるし、正直すぎても客は気分を害するものである。最初のうちは玄関をたたいても応対してくれないのも少なくなく（もちろん留守も含めて）、それでも顔を売ろうと軒数を多くまわったものです。そのうちに要領を得て、長居する様になり、やっとな、十日足らずで一台の車を売る事ができた。納車するカローラレビンに乗って客に届けに行った時の事は今でも記憶に残っています。そしてもう一台、自分が買ったのです。

それから7月に東富士研究所第12技術部特殊研究室に配属。担当はガソリンエンジン排ガス関係の研究開発部門。それ以後、現在まで同じ仕事をして来ているが、研究開発といっても、試作・実験・検討また試作……の繰り返しと実際は全くジミな仕事です。それでもそれが結果が良く、モノになっていけば嬉しいものですが、そういうものは数少ない。

配属されてから3年余りが過ぎたが、昨年末にTTC-Lエンジンの発表まではその研究開発。主に点火系について業務を遂行してきた。点火系といっても、そのうちの一つ、点火プラグを採ってみても、いざ商品となるいろいろな問題が出てくる。性能はどうか、耐久性はどうか、どんな場合でもエンジンに大巾なダメージを与えないか、それと逆に過剰品質にならないか……etc。

特に我々の開発したエンジンは従来のもとは異なり、点火中には特にキビシイ状態となっている為、その開発には疑問も要したが、苦勞も少なくなかった。そして、それらが世に出ているのです。街を走っている時にTTC-Lのグリーンラベルを見るたびに、「オー！ここでも頑張っているな。長生きしろよ」と心の中で叫んでしまいます。それによって今までの苦勞も一度に吹き飛んで、今では懐しく思えるくらいです。それ以後、次のターゲットに向かい、またジミな仕事を続けています。

プライベートについても、最近、悪しき妻をめとり、毎日楽しくやっております。しかし、今のところは生活していくのが精一杯です。長々と書きたい放題に書いてきましたが、最後に一言、皆様様方、お元気で！

〒410-11 裾野市御宿1327 トヨタ東富士アパート 1046

## 近況報告

M10 浅井真則

北小林のバス停から三島駅行のバスに乗り、広小路で下車し徒歩5分間。私の現在住んでいる所は、まさに学校のお膝元なのである。好きで三島に職場を求めたわけではなく、単なる成り行きにほかならない。設計部に配属されてはいるものの、まともな図面はまだ一枚も書くことはできない。経験が物をいう仕事だけに最初はこんなものだろうと、近ごろでは焦らないことにした。しかし、私も入社当初ははりきっており、いろいろな専門書を読んでいたことは事実だ。設計も大工と似ており、本だけ読んでも始まらず、とにかく経験を積まなければ話にならない。

“焦らず怠らず”今後今の会社で設計屋として仕事を続けていくためには、この2つのことをいつも頭の中にしておく必要がある。

効率のいいポンプを設計するのは、私の仮仕事であり、本当の仕事は、効率のいい人生を作ることにあるのだから、極力つまらない所に貴重な自分の動力を使わないようにしたいのであるが……。

1日が24時間というのは動かすことのできない客先仕様であり、そして、いかに充実した生き方をするか設計者の腕にかかってくる。低効率の設計者からは高効率の品物は生れない。（変形母性原則）

学生時代を過ごした三島で、今度は社会人としての時代を過ごしているのだが、はたしてどれだけの効率を記録できることやら……。

とにかく、焦らず怠らず頑張っていくつもりである。

〒411 三島市南町3-14 風間荘8号室



前列右から二人目の浅井君を囲む電業社の同窓生

## 雑感

E 1 田中甲志雄

46年に電々公社に入社し、専門は無線伝送で、今年からは科学技術庁に転向しており計画局に配属されている。情報を扱うという点では同じであるが、昨年末までは“伝送されてきた情報を、いかにして正確に伝送するか”という点に苦勞していたが、今年からは“いかにして正確に情報を作るか”という点に苦勞している。

まず第一に、情報が立場、見方で大きく変調されるといふ事がある。

例えば、朝のラッシュ時、駅員は「混み合っておりますので、押し合わずに降りる方が済んでから順序よくお乗り下さい」と放送する。国鉄の立場としては、乗客は

一つの集団であるから、どの部分に乗っても、乗れなくても同じである。しかし、乗客の立場としては、「混み合っておりますが、この電車に乗り遅れば会社に遅れます。人を押しのけても、是非乗って下さい」と放送するのが妥当であろう。

また、これと逆の例としては、スーパー等で、主婦に「砂糖は、100個で売り切れます。御希望の方は、至急、売場にお並び下さい」と呼びかける。これを主婦の側から言えば、「主婦の皆さん、いくら急いで売場に並んでも、買える人数は決まっています。急いで、転んではつまりません。暇のある方はどうぞ」という事になる。

結局、これらの場合はアピールする側に有利な様に集団を誘導する訳である。即ち、価値感を左右しようとする情報の流し方である。商売をする場合には、有利な様に誘導するのが当然であるが、昨今はこれが過ぎて、問題となっている事例が多い。

私の場合は、情報により利益を受ける側、受けない側のどちらにも片寄らないで、客観的にわかる情報を作る必要がある。

第二に、情報を受け取る人間の問題がある。人間は、本質的に自分の価値感に反する様な情報は、受けつけにくいという性質を持っている。「膚で感じた事と全く違う」という表現がそれに当たる。

例えば、秋の気温10度と春の10度とは、全く同一温度なのに、夏を過ぎた後か、冬を過ぎた後かによって感じが違っているだけだという事がわかっていない。物価統計等の数字（前年度比10%の上昇率etc）を上述の言葉で受けつけないという事もよくある。

実際には、その様な違和感を与える情報こそ、大切と思う。組織が大きくなればなるほど、情報の伝達能力が落ち、特に下からの情報が上に伝わりにくいという事は良く経験する。伝達途中で、違和感を与えない様に、フィルター（歪の発生）がかかってしまうのだと思う。

更に日本人の意識構造の単一性から、日本人の大部分が受け入れやすい情報と、大部分が違和感を抱く情報が出てくる。その際にそれを伝えるマスコミも商売であるから、先に述べた様な立場で、情報を変調して自分に都合の良い様に（売れる様に）変える（取捨選択も含む）恐れがある。

現実に、同一事件を全マスコミが没个性的に（迎合的・感情的）同一論調で報道する例が多い。例えば、環境問題であれば、環境破壊をするものは、それによって受ける利益も考えず、全てを悪としたり、A F 2問題であれば、他の物に代替しにくい分野があるにもかかわらず全面禁止にしたり、また石油蛋白の問題であれば、外国

では飼料としてすでに実用化しており、日本ではその肉を輸入しているかも知れないのに、自己満足的に全面禁止したりしている。

この様に、白か黒かの立場で単一的に判断してしまい、少数意見の発表の場もなく、あったとしてもそれを受け入れる余地に乏しい（全国民に非難される）点は、大きな問題である。

私の場合は、受け入れられにくいデータや情報を流す事も必要であり、かつそれを認識してもらう事が重要なので、その為には相手の意識していない価値感（前提）を的確に把握して、それを打破する事が必要となる。

こんな事を考えている毎日である。

(S. 51, 6)

〒166 東京都杉並区高円寺北1-27-7 高円寺社宅135 ☎03-385-6233

## 愚者の道

### E 1 柘植正隆

私が音響関係の道に入ったのは、自分の興味があったからとか、特別関心があったとかいうわけではない。

たまたま入社した会社が通信機器の関係の会社で、42年当時としては新分野のFM-MPX付カーステレオに第一歩を踏みだしたところであった。今では誰しもが知っているが、その当時としては車載用のFM-MPXは、画期的なものであった。それだけに専門書も少なく、実践実践の毎日であった。

42・43年頃、カーステレオは世界的に（特に米国において）需要が高まり、供給が追いつかない状態であった。安定供給もさる事ながら、品質を落さぬ事がバイヤーにとっては、ひいては会社にとって何よりも必要であるが、輸出物の為外でのクレームもやはり後手後手となってしまい、2年の契約で米国のバイヤーの方に駐在員となり、現地でのアフターサービスを担当する事になり、単身赴任した。

その当時、尤も今でもそうだが、FMステレオ放送はテレビ放送開始の時と同じ様に限られた時間だけしか放送が無く、又、放送局も2・3局しかないのが現状で、現地では受信帯域88~108 MHzの間にFM受信可能局が30余局あって、その内ほとんどがステレオ放送で発信出力も国土の関係から大変大きく、フリーウェイを走っていると急に隣の局が入ってきたりして、AFCをどの位にとって置いたら良いのか等と苦勞した。

技術的トラブルも少なくなり、異国での生活にも慣れてきた時、どういう訳か会社が倒産してしまい、相談相手もなく半年経過をみた後帰国した。出勤してみると、以前とは多少メンバーは違っても変りなく会社そのものは動いているので、まだまだ修業の身、それに技術的には立派な会社なので、そのまま更生会社でも得られる事は得ようと技術の方に残り、音響機器の設計開発の道に入った。

技術的な事を知れば知るほど恐しくなり、何度失敗を繰り返したのか解らないし、又、いくら金を使ったのかも解らないくらいである。「企業は人なり。」人は金なり、とはよく言ったもので、技術開発に携わっている人間を養成する為には会社は莫大な投資をするわけで、それが何年か後には花と咲くのであり、我々には毎日が1つ1つの積み重ねである。

50年に勧める人があって、何人かで独立しようという事になり、音響機器の設計事務所を創る。次に、設計だけでは物足りず工場も作り、現在40数名になり、少数精鋭主義で社内ラインはプリプロラインとして、主には外注生産の主義をとり、高級機種だけを取り扱う様な方針で、自社ブランド（グレゴリー）にて輸出を行ない、OEMは取り扱わない様にしています。

設計開発の足しにと今年の5月、ヨーロッパの市場調査に行き、欧州タイプ、米国タイプの違いを膚で感じ、いつの日にか世界的にも話題となる様なブランドに育つ事を夢めています。(S. 51, 6)

〒420 静岡市大岩2丁目34-18 ☎0542-47-0891

## ヤマハ同窓生

### E 2 入手弘美

(旧姓 勝又)

先頃の夜のことである。主人が職場の方を同伴して帰宅した。何やら騒々しい。みれば彼の車片一方の輪を下水溝に落してしまっている。

遠州のからっかぜ、ものすごい威力なのだ。溝の中はすぐにゴミの山になる。これを防ぐために家の前の下水溝はそっくり古板でおおってある。

このドブ板の上に「ごめんください」とのった彼の方が気の毒。当然メリメリ……。

二人、三人ではとてもあがりそうにない。たまたま彼が寮居住で、本社近くにある寮に仲間がいるという。

ほんの目と鼻の先なのでそれ……とかけつけてくれた数人。360ccの車になんと七人乗れたというから新記録

ではないか。そこは若さ、何なく引き上げた。

まあ、せっかく来てくれたこと、寄って下さい。にぎやかな皆々をうちながめ、時に話題に出てくる後輩諸君か……と大奮発、酒など用意して、おもてなし、話がはずんでいること。さて……である。夜も遅くなるので、では、おやすみなさい。と送り出す。

主人、曰く、

「おまえ、皆んな知ってるのか？」

「えっ？」

なんと、初対面の方ばかりという。落輪した彼の同期入社仲間とのこと、寄って下さった皆さんもびっくりしたのか、さっそく、会社で会った、我が同窓生の一人「酒まで出すことはないだろうに」。ハイ、どうもすみません。こんな具合で、珍歓迎をするかもしれませんが、遠州へお出かけの方は立寄って下さい。

ただし、いつでも酒がでるとは限らないのでその向は確かめてからお出かけの程を。

景気が上向いてきたとはいえ、なかなかきびしい実情、同窓の方といっても社内でお会いする機会がめったにない私には皆さんの様子をお知らせできない。

本稿は杉浦先輩が、その情報網をフルに活用して書いて下さる予定のところ、公私共に多忙をきわめているとのおことお引き受けした次第である。

〒437 磐田市明ヶ島965 - 6

## 奮闘めざして奮闘中

### C 3 畑川和彦

会社まで徒歩10分という恵まれた環境にいますが、いまだに朝とても弱く、勿論、夜になっても、我「ブレイン」はなかなかフル稼働せず、それでもなんとか会社に慣れてきたといったところです。就職して3年。いささか情けない気もしますが、現在自分の所属する会社がどんな業務を如何に進めており、また進めようとしているのか、ファームから何を待たりたいのか、こういったことの輪郭がやっとわかりかけてきました。

会社は合成ゴムの加工メーカーで鉄道車両・自動車各種機械電気製品に使用される機能部品を製造しているのですが、学ぶべきものが山ほどあり、時にはうんざりしてしまいます。それでも最近、「情報収集」と「創造性」が多くの場合極めて重要な役割をもち、いい意味での進歩につながると感じるようになりました。これらは、おそらく、よく言われる知識と知恵に相当するのでしょうか。

が、そこまでオーバーにいかなくとも、ちょっとした工夫に結びつけばと思います。知識の蓄積も大事なのですが、その実践という段になり、一步前進するためには知恵もまた必要です。仕事に限らず、あらゆる方面で自分の考えをプラスし、あるいは自分自身の考えで行動する為の「礎石、ともなる性質のものだ」と思います。失敗もかなりやりましたが（現在もやりつつあるのでは？）アウトラインと目標をその辺りにおいてやっていこうかといったところですよ。

〒251 藤沢市城南2-3-8 キーパー(株)男子寮

## 私の近況

### C3 山本まり子

私は、昭和48年に工業化学科を卒業し、(株)リコーに就職いたしました。2ヶ月の研修の後、感光紙のふるさと沼津工場に配属となり、すでに4年目に入っております。会社では、公害関係の業務にたずさわり、分析・測定をはじめ、公害防止対策及び公害防止の推進などを行っております。

リコーは、昨年9月にデミング賞に挑戦し、見事にこの賞を勝ち取りました。（デミング賞とは、品質管理のゆきとどいた会社に贈られるものであり、厳しい審査を受けるもので、とても権威のあるものです。）不況を契機として、社内の体質改善が行なわれ、全社員が休みも返上し、連日連夜努力した結果、この栄光に輝いたのです。私も、ささやかな力ですが、私なりに全力投球したつもりです。良い時にリコーに入り、良い経験をしたと、嬉しく思っております。

さて、私の近況ですが、仕事の面では、沼津工場初的女性技術屋という事で、男性と同じ仕事を与えられ、がんばっております。休日も週に2日あるおかげで、1日は屋外でテニスをしたり、友達とハイキングに行ったりして、もう1日は休養の日としています。いたって健康的な日々を送っている訳です。来年の欧州旅行を目指して、貯金もしています。学生時代よりも、何故か夢が持てる今日この頃です。ただ、会社では、男女を問わず、私の正しい年令を当てた人はおらず、みんなどういふ訳か2~3才上だと思っているようです。内面の豊さがそうさせるのか、この美貌が錯覚させるのか……複雑な気持です。先日も上司が、深刻な顔をして私を呼びました。私は仕事のミスでも指摘されるのかと、内心ヒヤヒヤしていたのですが、「結婚は近々するの？会社をやめる時には早めに言って下さいね」という話でした。私

は、もうこんな事を聞かれる年令になったのかと思うと、何となく照れくさいような、淋しいような気持でいます。

外は雨が降っています。時計も午前1時を回りました。明日も沢山の仕事が待っていますので、もう休む事にします。（本当は、お肌の為にも寝不足はできないんです。ああ、いやだ……！）

末筆ですが、沼津近郊に住んでいながら、先生方や職員の方々にも大変ご無沙汰して、申し訳ありません。

では、みなさん体に気をつけてがんばって下さい。

〒411 駿東郡清水町中徳倉27の6

## 我「ドン・キホーテ」なり

### C5 中西久雄

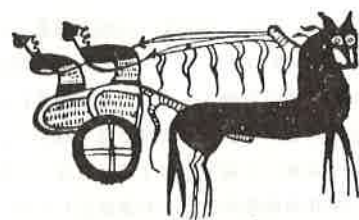
リヒャルト・シュトラウスという舌を噛みそうな名前の作曲家の曲に交響詩「ドン・キホーテ」というのがある。そのレコードを買って家に帰って来たところへ、同窓会役員の塩川氏から同窓会誌に載せるので何でもいから書けという内容の手紙が届いた。それで、三年生のとき、現国の講義で市川先生が、こんなことを話したのを思い出してしまった。「人間は十人十色でいろいろな性格の人がいるが、大別すればハムレット型とドン・キホーテ型に分れる」というのである。それ以来、私は自分が内省的で懐疑派であるハムレット型に属していると決めて、そう信じてきたものである。たとえ自分がローレンス・オリビエほどの男前ではないとしても、風車を巨人と違って攻撃したり、醜い百姓女を美しい姫君と思い込んだりする変態爺みの類では断じてないと思ったのである。

しかしながら学校を卒業して広く世間を知るようになると、自分をハムレット型人間にしておくことには些か抵抗を感じるようになってしまった……。と書く私を知る諸君の多くからは何を今さらと言われそうであるが、まったく私も同感である。よくよく考えてみれば、学生時代より趣味でやっている音楽が今以てやめられず、ベースなどという馬鹿みたいにアツカイ楽器を暇さえあればいじくりまわして、ベルリン・フィルの奏者にでもなったような気分で浜松交響楽団の設立に馳せ参じたかと思えば、今度は一転して夜の盛り場で我こそは浜松のレイ・ブラウンと言わんばかりに泥臭いブルースのビートを刻んでいるのだから、やっぱり私は相当なドン・キホーテ型人間であると言わざるを得ないのである。

もともと音楽の世界においてクラシックとジャズの両分野を同時にこなすというのは至難のわざであり、それができるのは余程の天才か凡人の中では極度のドン・キホーテ的性格の持ち主以外にはないと言えるだろう。まして私は楽器会社に勤務しているとはいえ、その仕事は音楽とは直接関係のない塗装技術の分野であり、どう考えても私はドン・キホーテ型人間でなくてはできない生活をおくっているようである。第一こんなことに今ごろ気がついたのは如何にもドン・キホーテ的ではないか。そして、それに気がつければ気がついたで、このような尊い性格の持ち主があつてこそ世の中が楽しいものになり、

文化は発展するのであると吹聴してまわるのであるから、私の場合は当のドン・キホーテほど純粋でないだけにたちが悪い。しかし、私ももう少し大人になれば『おれはドン・キホーテでいいのかなあ？』とちょっぴりハムレット的な心配もするようになるんじゃないかな。

〒430 静岡県浜松市向宿町495



## 開校記念日記念講演

去る5月4日、母校では開校記念日に当り、元教官である木戸先生と深尾先生とが、記念講演をなされました。ここに当日の講演内容を掲載しますので、開校当時を偲びたいと思います。

### 開校当時を顧みて

元機械工学科教授 木戸 義一

十年一昔と申します。十数年前の昔話など申し上げて、ご参考にもならないかも知れませんが、「開校記念日の記念」ということですので、当時のことを思い出すままに、軽い気持ちで申上げて見たいと思います。

いつも、沼津を通過するとき、車窓から富士を眺めますが、高専から見た富士、なつかしいです。金色の富士、真白な富士、まっかな富士、夏の青富士、いつ見てもいいものでした。沼津を離れてからは、夢にも見ました。このたび本校を訪れたときは、残念ながら雨模様でその姿が見られませんでした。雨が止んで、青空がでて、その中にくっきりと姿を現わすのも、また格別のものです。

雨雲に かくれてもよし 富士の山

お色直しの 姿 またるる

高専は、昭和37年に12校、翌38年に12校と設置され、その後次々と、増設されましたが、何分新しい制度によって、新しく出来た学校ですので、各学校それぞれの抱負をお持ちで、各学校独自の教育指導方針など、お互いに話し合い、お互いに見学したり連絡し合ったものです。平高専（現在の福島高専）をお訪ねしたとき、校長の佐藤先生も、のびのびした将来性のある学生を育てたい。校門を入ったところに大きな榎の木があるが、これは是非残して、学校のシンボルにしたいと言っておられました。同校の徽章に、榎の葉が図案化されて入っております。また富山高専をお訪ねしたとき、同校は正門の真向いに、立山が聳えております。これが富山高専のシンボルです。敬意を表して

さしのはる 朝日を浴びて 立つ山を

わが学び舎の 守りともがな

と一首差上げました。野路校長先生は、ありがとうといわれましたが、何だか明治天皇のお歌のようですね、私の好きなお歌、

あさみどり すみ渡りたる 大空の

ひろきを おのが 心ともがな

に似ていますねといわれ、ふしをつけて朗唱して下さいました。米子高専の大山、鹿児島高専の桜島山、各高専が思い思いにシンボルにするものを持っておられるようです。本校には霊峰富士、これは何といっても日本一でしょう。

寮の朝礼のとき、こんな歌を披露したこともありました。

さしのはる 朝日を浴びて 立つ富士を

仰ぎてわれら 伸びすすむなり

昔話のついでに、ずっと古いところを申し上げますと、明治維新の直後、慶応四年、明治と改元された年、沼津町に、沼津兵学校ができました。翌2年に同校附属小学校ができて、翌々3年に沢田教育所というのができ、これが金岡小学校の前身に当たるそうです。沼津高専が創立、開校のとき、未だ校舎が出来ていなかったで、仮り校舎としてお借りした建物が金岡中学校でした。わが国に小学校が出来たのが明治5年ですから、沼津にはそれ以前に学校が作られていたわけで、正に発祥の地とも言えるでしょう。また沼津高専が他高専に先がけて、第一期校として設けられ、金岡中学校を仮校舎として発足したことも何かの因縁かも知れません。

因縁と申しますと、沼津とは高専ができるずっと前から縁がありました。戦時中、昭和19年、20年に、私は、沼津、三島にしばしば参りました。例の学徒動員で、私の受持っていた学生（浜松高等工業学校）が沼津、三島地区では、中島飛行機製造(株)、沼津兵器製造(株)東京芝浦機械(株)沼津工場に配属されておりました。今の遺伝学研究所が、元の中島飛行機の谷田工場、今のコマツロビンが中島飛行機の黄瀬川工場で、飛行機の発動機を組立てていました。また、今の矢崎電線が沼津兵器製造(株)で機

関砲を作っておりました。東芝機械が、元の東京芝浦機械で、ここでは兵器を作る工作機械とか、各種専用機を作っていました。学生たちは、三島市内の神川寮と、沼津駅前杉山旅館と、千本の沼津兵器寮に分宿しておりました。当時は食糧不足でいつも腹ペコで、作業成績のよいものにごほうびとして、食券がよけいに貰えるのが何よりのはげみのようなものでした。

たまたま20年5月25日、私は三島におりましたが、「イエヤケタ、スグカエレ」という電報が届きました。浜松空襲で、私の家は全焼してしまいました。

また、沼津駅前に爆弾がおちたときも、私は沼津におりました。宿の人が一人亡くなりました。その後沼津の駅前には、すっかり焼けてしまいました。

空襲が激しくなったころ、井形先生(本校初代の校長)が、巡回にこられて、その時、急におなか痛くなり、盲腸炎と診断され入院手術をうけられました。いつ停電になるかも知れないので、ローソクや懐中電燈を用意して手術をうけられました。幸い手術は順調に行われ、経過もよく無事退院されました。

戦時中は、みんな、それぞれ苦労がありました。その沼津も、戦後立派に立ち直って今の姿になったわけです。この沼津に高専ができて、初代校長として井形先生が来られるようになるとは、また私もおともして沼津に来るようになるとは、全く思いもかけないことでした。

さて、ご承知のように、昭和37年4月20日沼津高専創立開校の日です。さき程申し上げた金岡中学校の一隅を仮校舎として発足、第1回の入学式を挙行いたしました。機械工学科2クラス、電気工学科1クラス計132名でした。

当時、高専は、隣県、愛知、山梨、神奈川にはなく、東京、千葉、埼玉にもありませんでしたので、学生の出身校別の分布は、ひろく県外に及び、遠くは、島根からも来ておりました。

寄宿舎も仮りのもので、沼津海岸の臨海寮がこれにあてられました。千本松原の中にあつて、風光まことによいところなのですが、建物は、本来が、夏の海水浴向けのもので、冬の生活には、結構なものではありませんでした。強い風にあたらたら、倒れるかも知れないという心配もありました。それでも、入寮を希望するものが沢山あって、止むを得ず、東は小田原より遠いもの、西は静岡より遠いものという範囲で、学生定員の60%が収容されました。

こんな具合で、開校当時は、何もかも不十分で、学生諸君には本当にお気の毒だったと思います。然し建学の理想というか、学生のはこりというか、教育に対する気構えは、教官はもちろん、学生諸君も、実にたくましくよく頑張り、よく張り切っていました。

臨海寮では、夜おそくまで勉強しているので、朝起きが大変のようでした。起床の合図で、一斉におきて、洗面、掃除、朝食、食事中に登校用のバスが来るのです。みんな一緒に乗り組んで学校まで直行、従ってチコク者は一人もいないわけです。

授業が終ると、また一緒に寮に帰ります。放課後のクラブ活動などは、運動場がないので、できませんでした。寮に帰ると、砂浜が運動場です。今のように防波堤もなく、広い砂浜でした。ソフトボールをやったり、キャッチボール、ランニング等々元気よくはねまわっておりました。松の木にのぼったり、大きな声で歌をうたったり、いたずらもしましたが、みんなそれぞれ個性のある愉快な人たちでした。今に立派な部長さん工場長さんに育っていくのでしょうか。頼母しく思いました。

それぞれに 姿はかわれ 千本の

松のみどりは かわらざりけり

と咏んでみました。

第2年目には、新寮ができましたが、第1回生が収容され、第2回生には臨海寮が充てられました。第2回生も、海岸の砂浜を運動場として元気一杯はねまわっておりました。一杯の井めしぢゃこの身はもたぬという唄ができたのも、この頃です。よく遊びましたが、またよく勉強しました。その勉強の仕方に、妙なくせがつかしました。みんなが寝てから勉強しようというのです。夜おそくまで、なかには、朝方まで勉強して、床に就いて一眠りの間もなく起床時間になるというわけです。その結果は、授業時間中の居ねむりという現象が現われました。朝の一時間目からコックリ、コックリということになりました。そこで、寮生と一諸に、生活の日課表を考え直しました。

1. お互いに自由に勉強できる時間をもつためにはどうしたらよいか。一定の時間中は侵さないようにしようではないか。

2. 睡眠時間はどの位がよいか。起床時間は何時としたらよいか。

3. 団体生活の関係上、食事時間、入浴時間、入浴順序等についても、きまりを設けなければなるまい。

ということで、大筋をきめて、みんなで作られたのが、大体现行の寮生の日課表です。

いよいよ新しい校舎ができて、38年4月に移転しました。引越しには、大きな荷物はトラックで運びましたが、その積み込み積みおろしは学生が手伝ってくれました。また、こわれやすい機械器具、実験器材等は、一つ一つ手をもって金岡から大岡の新校舎までぞろぞろ歩いて運んでくれました。何の文句も言わず、大事に扱って運んでくれました。ありがたいことでした。

新しい校舎、新しい寮に移って見ると富士山は近くに見え、駿河湾は金波銀波で輝き、箱根の連峰、伊豆の山なみ、よい眺望です。また校内もすべてが新しいものばかりで、気分も一新して爽快でしたが、楽しいことばかりというわけにもいきませんで、苦勞もありました。

第1は道路のわるいこと。雨の日は、道が泥田のようになって、長靴でなければ歩けません。タクシーも、沼津高専までという、雨の日は断われました。ぬかるみで農家の車が動けなくなって、高専の学生が後おしたり引っぱったりして、手伝ってあげて土地の人達から感謝されたことも、度々でした。

天気のよい日には、全校で道路のデコボコ直し、夏になると広い校庭一杯に草が茂りますので、これまた全校で草刈り除草もやりました。最初の3年間位は、道路の整備、草刈り除草が、行事予定に組みこまれる状態でした。

風が吹くとまた大変でした。黄塵万丈、忽ち愛鷹山が見えなくなるという有様でした。室の中も、日に何回となく掃除しなければなりません。風の吹く夜など、夜具の襟元、枕下にホコリが積るようなこともありました。今から思うと、まるでそのようです。

新寮の方も、当時ドアにストッパーがついていなかったもので、学生が出入りする度にパターン、パターンと大きな音がして、ねていても眼がさめてしまいます。宿直された先生方は、睡眠不足になったようです。また、水洗便所で断水して使えなくて困ったことがありました。学生の中には、沼津まで行って駅や、ほていやで、用を足したという話も伝わっております。

試験のことですが、初年度の頃は、第1、第2、第3学期制で、各学期の末に試験がありました。その結果は頗る優秀で、平均点が80点という様な科目もありました。中学時代は自分が、トップだと思ったのに、高専に来て見ると、自分より出来るのがいるというのが励みになったのかも知れません。実によく勉強していました。教える先生方にとっては、教え甲斐のある学生だったと思います。

高専体育大会について、初年度の頃の様子をお話して見たいと思います。高専は、年令的に、1、2、3年が高等学校に相当し、4、5年が大学の教養課程、短大に相当するため、体育大会、競技会等について、どちらにも所属できない中途半端の存在でした。これでは学生の折角のクラブ活動の成果を発揮する場もなくて、不満でもあろうし、気の毒だということで、豊田高専の須賀校長先生が口火を切って、新しく高専体育大会というものをご設けようということになり、まず東海地区からでも始めようということで、第1回は豊田高専で行なわれま

した。陸上、野球、卓球の三種目だけでしたが、本校は3種目に優勝して総合優勝、カップは4つ全部もらってきました。第2回は本校が主管校となり、陸上、野球、バレー、バスケット、卓球、庭球の6種目について競技が行われました。このときも本校は総合優勝しました。第3回は鈴鹿で行なわれ競技種目は、柔道、剣道、サッカーが加わり、9種目となりました。打倒沼津の声が大きく湧き上がりました。結果は、このときも総合優勝という輝かしいものでした。

高専体育大会は、東海地区に続いて、各地区でも行なわれるようになり、昭和41年には、各地区の優勝者が競技が行われるようになり、第1回の全国高専体育大会が生まれ出ました。年を追って、大会も盛んになりましたが諸君の先輩は立派な歴史を残しております。

始めて、第1回の卒業生を送り出したのは、42年3月でした。卒業式を終えて卒業祝賀会が開かれました。昨年までの学生が、急に一遍に大人になった様に感じたことを強く思い出します。

五つ年の 学びの庭を ふりかえり

仰げば高く なつかしの富士

第1回卒業生の就職については、何分初めてのことであり、業界も高専に対する認識が不足で、また格付け等の問題もあり、採用する側は、あまり積極的ではありませんでした。勿論、全員の就職は早くまわっていましたが待遇等で、あまりよくない向きがありました。こういうことは、時を待つより仕方ないものです。幸い、大きな会社に行った人たちが、大学卒の中に入って、頑張ってくれて、その実力実績がみとめられ、第2回生からは、高専卒の人気もずっと高まり、急激に求人もふえ、全国的に高専に対する評価が上ってまいりました。本当に、うれしく思いました。

お話を始めると、きりがありませんが、ほんの最初の頃のお話までに止めておきます。

\* \* \*

終りに、初代校長井形先生が、創立以来、本校の基礎確立のためにご苦勞され、漸く軌道にのったときに、急にお亡くなりになったこと、返す返すも残念に思います。先生の平素いわれましたことばのうち、いくつかを申し上げて見ます。

1. 人柄のよい優秀な技術者となって世の期待に応えよ。
2. 人柄のよい学生を育てたい
3. 高専には、いろいろのご出身の先生方がおられる。みんな、推せんされ、選ばれて来られた立派な先生方ばかりだ。その様な先生方の才能、熱意が生かされなければ、申し訳がない。

4. 人と人との調和をはかっていくことが何よりも大切なことだ、学生の間でも同じことだ、その積りで学生主事もやってほしい。

5. 研究は忙しい中でもやれ。ひまになったらやるというのでは、何時までたっても出来るものではない。

6. 学校は、教育実習の場だ。文部省から来た施設設備費は100%有効に使いなさい。いやしくもピンハネなどして、他に流用するようなことはしないよう。

次いで、二代目土井校長先生のご着任最初の言葉を申し上げておきます。

温厚着実な井形先生のお人がらについてはよく知っていたので、沼津高専というものに大きな期待と希望をもって拝命した。学生諸君は、自分の将来を大事に育てるように、そして一技一芸に秀でた者というだけでなく、一徳を積んだ、尊敬に値する人間となるよう心掛けて貰いたい、といわれました。

まことに味わいのある言葉と思ひまして、重ねて、私から諸君にお伝えして、今は亡き両先生を忍びたいと思ひます。

丁度よい結びが出来ましたところで、私の話を終わります。

(昭51-5-4)

〒969-16 福島県桑折町桑島2-1-4

## 開校前後の思い出

元電気工学科教授 深尾 保

昭和37年の開校当時から4年間教務主事をやっておった深尾です。沼津高専には丁度10年あって昭和47年に退職しました。

この2月の初めに、学校から開校記念行事の講演として、開校当時の学生の意気込み等について話しようとお手紙を頂きましたが、私は教務主事として主に教務の仕事をしておった関係で、学生諸君を中心とした色々のことについては、むしろ学生主事や寮務の先生方にお話し頂いた方がよいと考えましたが、幸い当時の学生主事だった木戸先生がお出になるということで実は安心しました。

お話に先き立って、こういう機会を与えて頂いたことについて厚く御礼申し上げます。折角の気候の良い時なのに恐縮ですし、特別講演などと申し上げるものでなくこれ又恐縮です。

高専のことについてはお話することが多く一日中お話ししても尽きない程です。

ここでは、主に開校当時或はその前後のことを多少知っておるので、それらの裏話とか裏表の話を中心にお話するつもりです。そういうことで、学生諸君にはどうかと思いますが、当時のことについて関心をお持ちの方にくらかご参考になるかと思ひます。

高専を作るということは昭和35年頃から考えられていました。

丁度その頃の新聞切抜きを取って置いてあったので詳しいことが分っています。

当時所得倍増ということが言い出され、生産を上げるために技術者が不足することが問題になり、殊に中堅技術者の育成が必要とされました。その為色々検討された後、高専を作る、特に工業高専を作ることになり、昭和36年8月には、高等専門学校設置基準というものが法律で定められ、授業時間数なども細かく決められました。そして37年度中には国立の高専10校位設置するということに決まりました。

そこで静岡県でも高専を呼びたい、誘致したいという考えが出て、国立工業高等専門学校誘致促進委員会が設けられ、そして静岡県東部、結局沼津に誘致するという方針を決めて運動を進めました。

その頃から新聞やラジオに注意しておりましたが、昭和37年1月10日朝7時のラジオニュースで、沼津に高専が出来るということが放送されました。私もその時のことを覚えております。全国各地では激しい誘致運動があったようですが、沼津高専は順調に進んで思ひの外早く決定されました。全国では12校が決定されました。

そこで静岡県では、誘致委員会を設立準備委員会に切りかえて準備を進めました。

沼津高専の開設には、静岡県つまり県知事が中心になって進めました。それは校地などどこにするかという敷地の選定、そしてその買収に要する費用、坪5000円、2万5千坪として約1億2千5百万円をどうまかなうかということ、そして取敢えず使用しなければならない仮校舎や仮寄宿舎の選定などに当りました。

一方、静岡大学が世話大学ということで、開設に際して渡辺寧学長を中心に諸々世話をされ、入学試験(入学候補者選考学力検査)も静岡大学が中心になってやられたのです。

そういうこともあって、初代の校長には静岡大学工学部の井形厚臣先生が選ばれて、2月13日に内定されました。

ついで私共木戸先生、水谷事務長と私、何れも静岡大学の者ですが内定致しました。また、その他の職員数名の方も決まりました。

井形校長は、早速文部省からの高専に関する資料、そ

れに犬丸技術教育課長の「高等専門学校制度と関係法令の解説」という本を中心に色々研究され、我々もお手伝いし、準備を進めました。私共は学年末のいそがしい中で、浜松の工学部で色々打合せをし、ご相談致しました。

何分高専という学校は新しい形式のもので初めてのことであり、どういう学校であるのか、どういう風にやっていたのか色々研究しました。今迄の小・中・高校・大学というルートとは違った方式であり、どうしたらよいか分からないというのが実情でした。

私は学長の渡辺先生から直々に内命によって沼津高専に行くようお願いを受けましたが、一体どんな所なのか知りたく、当時既に第一候補地に挙げられていた今の学校の予定場所へ行ってみることにしました。37年の1月28日でした。

その時から10年程前国産電機へ見学に来たことがありましたが、当時山裾の田舎だと思っていたのに又その奥だというので、どんな所かと考えながら出かけました。当日は冷たく風もあって、あの鉄塔の所までやって来ました。雑木林や荒地だったり、人氣も無く殺風景で、こんな所かとやれやれの思いでした。

恐らく高専の関係者では、私が最初に訪れたのだと思っています。

仮校舎と仮寄宿舎とは静岡県で決め、入学試験は静岡大学でやるという中で私共は内定したのです。それでも、開校そして入学式までふた月もありません。今迄なかった学校とて、どうしたらよいか、殆ど手探りの状態だったのです。而も開校迄には色々準備しなければなりません。校則を決めたり、教材、教科書の選定等、とにかく入学式までには万事間に合わせなければなりません。細かい所まで決めなくてはなりません。

その一例が徽章、帽章です。随分と考えました。皆さんも考えられました。富士山が見えるのでなんとか富士山を入れてみたい等考えてみましたが、仲々うまくゆきません。ただ文部省から「高専」という二文字を入れるようにとの指示がありましたがどうもまとまりません。私共は度々浜松から沼津へ準備・打合せ等のためやって来ましたが、ある日ふと沼津市章が目につきました。一応図面にかいて、井形先生にお見せしたことがあります。しばらくそれも忘れていましたが、開校も間近になった或る日、井形先生からあの下図はということでした。先生もお考えになったのでしょうか、製作の日数など考えて一応それということになり、急ぎ決定されたわけです。

今考えてみるとどうかと思うのですが、他に妙案もなかったのだからこれに決ったらしいのです。

ついでにもう一つ、襟章のことで。学年別に1、2

3、4、5と数字を並べては区別が露骨であるし、毎年取替えなければならない面倒もある。そんなことで色別にすることに決めました。虹の色の順序にするのです。5色ですが、私には学生が虹の様な大志を持ってもらいたいという気持があったのです。

開校式を控えて事務の人達も大変でした。仮校舎は金岡中学の旧校舎で（沼津市岡宮開拓1512金岡中学北校舎）今の中学の校地の北半分の所にあったのです。太平洋戦争中は沼津海軍工廠の工具養成所だったとかいうことでした。古びて崩れかけ、床にも穴があいたりした木造の二階建てでした。開校のため手入れして、式直前には見違える程とはいかなかったものの大分きれいになりました。そこに開校、入学式の式場を作らなくてはならない。その為職員は殆ど徹夜だったそうです。

4月に入って毎日のように雨でした。当時は駅からの道も雨が降るとぬかるんで歩き難かったのです。19日に漸く上って、20日はぬぐったようにすがすがしく晴れ、朝はやや涼しげで青空に白く雪を頂いた富士もくっきりと映えていました。

その前井形校長は4月8日に沼津に着任。私は4月13日の金曜日に沼津に来ました。土曜日では半日で来てても何も用事が出来ないからと思って金曜日にしたのです。13日の金曜日だが一方この日は大安です。西洋式では縁起の悪い日ですが日本流では吉日です。一体どちらに軍配があるか、私はかけの気持でした。何か私の未来をかけたような気持でした。13日が金曜日でしたから開校式の20日も金曜日のわけです。

愈々学校が始まりました。ここで始業時刻のことで、井形先生は8時30分始業を考えておられたのですが、バス会社で8時30分に間に合わせることは従来の学校で手一杯で出来ないということで、8時50分始業に致しました。学校は始まりましたが、然し仮校舎で中学と同居です。教室は少し離れていて、たいした支障はありませんでしたが、グラウンドは同じで体育や特活には不便でした。

そして又一部の学生を収容するための仮寄宿舎は臨海寮といって、千本浜にあって夏休みに山梨県などから水泳に来る生徒を泊める木造の粗末な宿舎で、学校までバスで30分以上かかりました。

然し今当時の写真で見ると、浜辺に松並木が続いて海が開けている思い出の所です。学生諸君はこうした不便な仮住いの中でもやはり若いユーモアに富んだ作品を残してくれました。当時旺文社の記者が取材に来て写したその頃の写真を見るとほのぼのとしたものがあります。

所で私が特に気にしていたのは、成績のつけ方と特活のことでした。

成績については、浜松高等工業学校から静岡大学工学部までの経験で適当な評価方法をとってきまして大した誤りもなかったもので、大体同じように成績をつけました。所が8月になって文部省で会議があって成績のつけ方が指示されました。これは60点が最低で以下は不合格というのです。その為これまでつけてきた成績を新しい成績につけ直すということになってしまいました。

ここで一寸、学校では先生方には決して落そうとして成績をつける方はないと思います。諸君は学校へ来ているのだから学校の勉強をして下さい。少なくとも60点以下にはならぬ様頑張ってください。

その頃は私も忙がしく、1週2回午後電気製図を受け持っておりましたが、会議とか書類作りとか、新しい学校を視察にくる文部省・県・市その他高専誘致を希望している地方の市長や議長等が来られる他、実験設備の資材教材の売り込みに来る商社の人達が絶えませんでした。その為毎週2回の製図が必ず1回は出られませんでした。昼食が食べられなかったことも度々ありました。

特活のやり方も仲々問題でした。仮校舎の場合は勿論、新校舎になってからも、場所や設備資材等仲々厄介に思うようには行きませんでした。先生方のご努力もあり曲りなりといつては失礼ですが過ぎました。

然し学生諸君の日頃の努力で、38年豊田高専で行われた第1回の東海4県高専体育大会では見事優勝も完全優勝という大業をなしとげ、沼津高専の名を高めました。これは学生の意気込みといえるかどうか分かりませんが二つ程お話しします。

第2期の高専が出来た年、昭和38年9月20日葦山で行われた東海4県校長会議の時、当時の豊田高専の校長須賀太郎先生とご一緒になったことがございます。先生は葦山へ向う車の中でこんなお話を行ないました。群馬高専にお出になりました時、前橋駅でしたか夕方暗くなりかけにタクシーに乗られたそうです。その時「群馬高専」と言われましたのにその運転手は一才とまどい、温泉つまり冷たい温泉の意味の鉱泉と思い違いしたらしく「ゲンマコーセン」は知らないと言ったそうです。困ったことだと思はれましたが、そこで今度出来た学校だと言われた所、あああのみまじめなちゃんと学帽を冠っている学生さんの所ですかと言ったことで分かったそうです。当時としては高専の学生がそんな風に世間一般の人に立派に見えたのでしょうか。

今度は沼津のことで、新校舎が出来て間もなく、通学バスが北小林から学校まで乗入れたことがありました。ある朝運転手から座席のシートが切られている。この学生ではないかと言われました。うちの学生にはそんなことは無い筈だと思いつつ、然し念の為学校へ行って早

速調べると答えておき、すぐ各クラスに呼びかけて注意しました。そんな間違ったことはある筈はありませんでした。早速私は事務の人と一緒にバス会社に向いてその旨話した所、会社ではわざわざ丁寧にと頻りに恐縮しておりました。当時の高校生の中にはそんな風に見られる傾向もあったのでしょうか。然し高専の学生にはそんなのは無い筈です。

開校当時から私共はいつも文部省からの学生に対する扱いについての注意の通り、生徒ではなく、学生として即ちstudentとして扱うようにと心がけてきました。あくまでも5年制高校であってはならないと言われておりましたように、私共は学生として、学生らしくということをもットーとしてきました。それは学生として自らを勉す、自らを慎しむという意味です。最近学生らしくない大学生など出てきて残念に思っています。

それからもう一つ、南小林から官舎や寄宿舎へ行く細道は、当時は狭くそして雨が降るとぬかるんで、寮や官舎へ来るタクシーは立往生です。すると寮生が寮で見つけて、2、300mもあるのに駆けつけて自動車の引き上げを手伝ったことが度々でした。当時は私の官舎からその細道も見え、寮もよく見通せたのです。

ここは富士山が見える唯一の高専です。図書館の設計の時にも、特に図書館から富士山を眺められるようにお願いしたことがあります。今一階の突き当りのロビーでの眺めは正に絶景です。私はあそこを富士の間と呼びたいと思っています。

富士山が見えるという丈ではありません。私が退職する少し前までに、当時文部省の委員を先生方がやっておられましたが、50何校の高専の中、沼津高専の先生方が委員として最も多かったのです。その意味でも沼津は日本一です。

諸君は、学校では身体を鍛えるためスポーツをする、まあ運動をする事が必要です。競技でなくてもいい、この附近は風光明媚な所歩き廻る丈でもいい。

そして講演を聞くこと。ラジオのもでもいい、つまり広く多くの方々のお話を聞き、それを取入れることです。

それから読書が大切です。生きて行く為には食事をしなくてはなりません。そして心の栄養としては読書は欠かせません。ただつまらん本はいけません。無駄なエネルギーは止めることです。いい本は一生、特に年を取る毎にその深みを味えます。

私も図書館の仕事を当時しておりまして、いい本を集めることを考えてきましたが、是非読んで味ってください。こういう学校の生活の中でお互いの連帯感から友人が出来てきます。学校の友人、いわば同窓のよしみです。これは大切な事です。同窓、同窓生、同窓会大切にしな

くではありません。

私の事で恐縮ですが、友人といっても小学校、中学校、大学とあります。

先ず高等学校の一人の友人の事です。友人といってもほんの同窓だったという丈の関係でした。昔の高等学校は文科と理科とに分かれていました。5組で3年つまり15クラス、沼津高専は4組で5年20クラスとほぼ同じ規模です。彼は文科で私は理科です、勿論教室は違います。学校では一寸顔を合わせる程度だったでしょう。袖師の海水浴場でひょっとしたら一寸話したかという程度の付き合いです。

それが妙な所で会いました。昭和12年の12月南京に向う山中です。山道です。

私は支那事変で応召して中支に向いましたが、南京が陥落したあと部隊は前がつかえて仲々進めません。左へカーブして行くとやがて中山稜ですか見えるという程の所です。小高い丘程度の山道で小休止をしていました。すると右手の脇道から尾崎部隊という旗を立てた自動車の部隊がやって来ました。一人の将校が降りてきました。それが尾崎君でした。卒業以来約10年程たっており而もそれ程親しくもしていなかったのに、それに彼は中尉、私は二等兵です。普通では軍隊では話も出来ない階級が離れています。私は自分の中隊長に小言を喰った以外は話かけられたことも無かった程なのです。それなのにそこでしばらく立話です。この敵陣の山中で不思議な邂逅でした。これも同窓だったからのよしみです。

もう一つ小学校の事です。

私の小学校は静岡の一番町小学校で、4年、5年、6年と同じ先生に受持られました。一番町小学校は付属小学校とか城内の西・東の小学校に比べて場末の小学校と考えられていたようですが、先生は誠に教育熱心で中学や商業学校へ十数人の進学の為ご努力されました。その他の生徒にも暖く扱っておられました。

丁度私が退職してしばらく静岡に居た時であります。昭和47年9月17日にその数年間の同窓生が集って50年忌の法要をしたことがありました。それがどこから伝っていったかその11月1日、丁度沼津高専で開校十周年記念の催しがあった日でしたが、野々山先生への謝恩のことが取上げられてTBSの「みんなで歌おう」という番組、その時の司会は森光子でしたが、一番町小学校から全国放送されたことがありました。現在の安西小学校は私が2年から3年の時出来たようですが、その時転校で別れた友達と久しぶりに、60年もたってから会いましたがつい今迄ずっと会っていた友達のような気持ちでした。友人はいつ会っても誠に親しみあるものです。

最後に一寸申します。40年も教師をやっていた癖でつ

いお説教ということになるかも知れませんが我慢して下さい。沼津高専がこれ迄になる為には、今迄お話しの方々の他数知れぬ方々のお世話、ご協力のあったことを念頭に入れて下さい。

例えば学校の敷地購入の為県内の会社等から、当時千万、二千万或はもっと多くの寄附をお願いしたのです。開校後になって尚不足があり、県の方からですか割当があったらしいのです。そのことでこの近くの会社の方が学校に来られてどういう訳なのかと事情を聞きただされて、沼津高専に在職している私としても申し訳ないことと思いました。仲々多額の金額のこととなるとむずかしいものです。こういった多くの県内の人々のご助力、ご援助のあったことを更に思い出して下さい。そういったことも念頭において下さい。

人は互に助け合ってこそ生きてゆけるもので、互にもたれつつそして互に常に感謝の気持ちを持ち、嬉しかった入学当時の気持つまり初心に戻って、日々新しい気持ちで精進して下さい。諸君の日々の生活の積み重ねが又沼津高専の歴史を描き作っていくのです。

私にとっても、私の人生の中で沼津におった10年というものは大きい比重を持ち、非常に意義深いものでした。新しい学校を作っていく、微力であり、私の成果というものには拙いものでありましたが、今思い起してほんとうに感慨深いものがあります。

諸君が立派に成長され、従って沼津高専が益々発展して行くよう、精々精進努力されるよう心からお祈り致します。

〒227 横浜市緑区松風台 24-45

参考

大丸直氏著・高等専門学校制度と関係法令の解説  
新聞切抜帳沼津高専アルバム第1冊

## 座談会

「就職に対する心構えについて」

学生主事 藤野紫郎

今年春頃の同窓会理事会の席での雑談中、最近の高専卒業生の新入社員は社会人としての自覚が足りないとか、企業の厳しさに対する認識が甘いのではないかと、といった在校生にとっては耳の痛い話題が出た。しかしこれらのことが過去に卒業した者達に対する評価をも下落させるおそれもある。そこで5年生に対して就職試験前に卒業生の人達の体験を話してもらい、やる気のある新人として社会に出、先輩と共に働いてもらおう。このような

ことから卒業生との座談会を開催したらどうかということになり、早速就職委員会（委員は学生主事、学科主任、5年学級担任教官、事務部長、学生課長）で相談の結果、期日は7月3日(土)、講演者の人選は同窓会に一任する、ということで後記16名の卒業生に来校願うこととなった。

当日の会は午前9時より視聴覚教室において白井一夫、鈴木恒男両君より5年生全員に対して自分の体験談を中心にして総括的な今後の心構えについて約1時間話してもらった。その後各学科に分れて各教室で、各学科の卒業生が更に詳細に、かつ専門分野の立場も交えながら、卒業以後今日に到るまでに体験し反省し、また社会人として学んできたこと等を話してもらった。そして最後に5年生からの質問に対しても誠意のある答をしてくれた。この間約2時間、5年生は先輩諸兄の現場におけるなまの声を感銘深く聞いていたようで、この催しに対する評価は高かったし、また先輩の後輩に対する思いやりの深さを改めて認識したようであった。

その後、教官会議室で就職委員の教官と昼食を共にしながら、卒業生諸君の学校に対する意見、希望等活発な発言があり、また教務主事も出席して技術科学大学の創設、授業内容の改善等の説明も行われ、午後2時過ぎ散会した。

終りにこの催しに協力してくれた卒業生諸君に厚く感謝の意を表するとともに、このような企画を今後続けたいと思うので、卒業生各位の意見、要望等聞かせてもらえれば幸いです。

当日来校した卒業生は下記の諸君でした。

長谷川浩之 (M1)	白井一夫 (M1)
伊達忠昭 (M1)	名倉光雄 (M2)
鈴木克利 (M5)	木戸 実 (M6)
筒井正文 (M6)	鈴木恒男 (E1)
漆畑 豊 (E1)	田中善士 (E1)
小野 薫 (E4)	高橋 徹 (E4)
水上重徳 (E5)	田中一博 (C1)
中村誠一 (C2)	山田久義 (C4)



白井会長がユニークな話術で貴重な体験談を披露



先輩の体験談に熱心に聞き入る在学生

## 慶弔報告

### 村松先生を送る

C2 中村 誠一

工業化学科の主、村松宏司先生が今年の4月に定年退官された。

東芝電気から高専に来られてから10年間、学科主任など多くの職務を歴任されて、同窓会でも顧問教官として御助力を頂いて来た。

常に若々しく、テニスに親しみ学生と一語に練習していた姿は忘れられない。教壇ではいつも口癖のように「ムリムリに覚えるな」「理解せよ」と言われ先生独自の勉学の心を話しておられた。

授業のみならず就職の時は誰もがお世話になり、又卒業研究、クラブ活動などに御迷惑をかけた者も多かった。

そのような先生の長年の御尽力に感謝するため、我々工業化学卒業生40数名は「村松先生を囲む会」と題し、2月28日、三島田代グリンに集まり送別の会を催した。テストや講義で苦しんだ思い出は今やなつかしみと変り楽しい語らいの場となった。卒業後一度も姿を見せなかった者も多く集まり、先生に感謝することができたことは嬉しかった。

先生は現在横浜の方に住まわれていますが、退官後も非常勤講師として週に一度程度高専に来られるとのことであり、また我々も遊びに行きたいものである。最後に、いつまでも若々しい先生であってほしいと願う。 (〒410 沼津市大岡3873)

村松先生の住所

〒223 横浜市港北区日吉町232

☎044-61-3748



## 恩師死亡のお知らせ

母校教官である大石三郎先生が、去る8月24日脳溢血の為、急逝されました。

先生は、昭和47年母校教官として赴任されて5年、機械設計製図、工学実験を担当され、又、今年度M1Aの学級副担任として学生の指導に当たって来られました。

ここに慎んで故人の御冥福をお祈り致します。

御遺族 故人兄君 大石達男様

〒432 浜松市浅田町243

## 同窓会名簿の発行について

名簿編集委員長 久保田 豊

我が沼津高専同胞の皆様、同窓会も本年は早や第10期の卒業生を迎え、創立10周年の年となりました。正会員総数も1328名となり、いよいよ会としての重みを有しつつある感が致します。

さて既に御承知の事と思いますが、5年を節としての同窓会会員名簿の作成に現在奮闘中でございます。

5月末に皆様に発送した名簿カードの返却ハガキと、各理事の調査資料を元に、10月末（総会時）発行目標ですすめております。

会員相互の連絡簿としては勿論、是非我が沼津高専同窓会の発展の為に御利用下さい。

照会ハガキに記しましたように、一冊1000円（送料込）で発送致しますので、御申し込み下さい。

申し込み先

〒410 沼津市大岡3600

沼津工業高等専門学校内

同窓会事務局 宛

TEL 0559-21-2700

（郵便振替口座 東京2-102151）

## 会費未納者へのお願い

事務長 神山 始 佳

みなさま、御存知のことと思いますが、同窓会運営資金としては、会員終身会費に頼るほかないのが実状です。

現在、財政が逼迫しておりこのままでは、近い将来、財政難に陥いるのは必至です。事務局といたしましても、会誌等、刊行物発送の際に未納者に対し振替用紙を同封し、お願いしているのですが、未だ未納者がいるのは残念です。同窓会のスムーズな運営のためにも未納者は至急納入して下さい。

## お 知 ら せ

### 1. 教務係より

卒業証明書、成績証明書等の発行依頼の際、多数の卒業生の中には、返信用切手を同封せずに依頼してくる方がいます。教務係では事情もあろうかと思い「ポケットマネー」でこれを立て替えて送っているのが実情です。今後は必ず返信用切手を同封して下さいをお願いします。

### 2. 同窓会事務局より

同窓会郵送物の中に宛先不明で戻ってくる物が相変わらず目立ちます。確実に発行物を届ける為には正確な住所が必要です。転居の際には必ず、電話、ハガキ等の何らかの方法で各クラス名簿担当理事、あるいは沼津高専同窓会事務局（沼津高専内）に連絡して下さい。

## 沼津工業高等専門学校同窓会会則

昭和42年3月20日制定

昭和49年10月27日改正

### 第一章 総 則

第1条 本会は沼津工業高等専門学校同窓会という。

第2条 本会は本部を沼津工業高等専門学校内に置く。

### 第二章 目的および事業

第3条 本会は会員相互の連絡、親睦と母校との連絡をはかり、工業技術振興に寄与することを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行なう。

- 一 会員相互の連絡に関すること。
- 二 会員名簿の発行に関すること。
- 三 会誌等の発行に関すること。
- 四 その他必要な事業。

### 第三章 会 員

第5条 本会は次の会員を以て組織する。

- 一 正 会 員  
沼津工業高等専門学校を卒業した者ならびに同校に3年以上在籍し理事会の承認を受けた者。
- 二 特別会員  
沼津工業高等専門学校の教職員ならびに理事会で推薦された旧教職員。

### 第四章 役員および職務

第6条 本会に次の役員を置く。

- 一 名誉会長 1名
- 二 会 長 1名
- 三 副 会 長 1名
- 四 事 務 長 1名
- 五 理 事 若干名
- 六 監 事 2名
- 七 顧 問 若干名

第7条 役員は次の職務を行なう。

- 一 名誉会長の職務  
会長の諮問に応ずる。
- 二 会長の職務  
イ 本会を代表し会務を総理する。  
ロ 第4条の事業を行なうため、必要に応じて分科委員会を置くことができる。

委員は会長が選出し、その職務を委嘱する。

ハ 総会を召集し、必要に応じて理事会、委員会、その他の会議を召集する。

### 三 副会長の職務

イ 会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。

ロ 会長の置いた委員会を統轄し、その諮問に応ずる。

### 四 事務長の職務

イ 本会の会計業務を行なう。  
必要に応じて業務を理事に委嘱することができる。

ロ 年度終了時に決算報告書、予算案を作成する。

### 五 理事の職務

理事会を構成し、会務を処理する。

### 六 監事の職務

会計を監査する。

### 七 顧問の職務

会務に関し、理事会の諮問に応ずる。

### 第五章 役員の選出方法および任期

第8条 会長、副会長および事務長は理事会において選出し、総会の承認を受けるものとする。

2 理事は卒業年次の各科から2名ずつ選出された者、および会長の委嘱による者若干名とする。

3 監事は理事会の推薦により会長が委嘱する。

第9条 名誉会長には沼津工業高等専門学校長を推戴する。

2 顧問は特別会員の中から理事会が推薦し会長が委嘱する。

第10条 役員の任期は2箇年とする。ただし再任を妨げない。

2 補欠により選任された役員の任期は前任者の残任期間とする。

### 第六章 支 部

第11条 本会は理事会の承認を受けて支部を設

けることができる。

支部についての規定は別にこれを定める。

第七章 会 議  
第12条 総 会

総会は原則として毎年1回これを開催する。

必要に応じ臨時総会を開くことができる。

二 総会における審議承認事項は、出席正会員の過半数の同意を得た時可決される。

三 総会における決定事項は原則としてこれを全会員に通知する。

2 理 事 会  
会長が必要に応じ随時開催する。

3 委 員 会  
一 会長が必要に応じ随時設置する。  
二 副会長が委員長となり、会長の諮問に応ずる。

第13条 次の事項は総会において承認を受けなければならない。

- 一 事業計画および収支予算に関すること。
- 二 事業報告および収支決算に関すること。
- 三 役員を選任に関すること。
- 四 会則の改廃に関すること。
- 五 その他会務運営に必要な重要事項。

第八章 会 計

第14条 本会の正会員は終身会費を納入するものとする。

終 身 会 費 10,000円

第15条 本会の経費は終身会費その他をもってこれに当てる。

第16条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日とする。

第九章 雑 則

第17条 本会の正会員は住所、姓名、勤務先等の変更に関して、その都度、本部に連絡しなければならない。

第18条 本会則は総会における審議で変更することができる。

第19条 本会則を施行するに必要な細則は理事会の議を経て別に定める。

附 則

- 1. この会則は昭和42年3月20日から実施する。
- 2. この改正会則は昭和43年6月23日から施行する。(昭和43年6月23日改正)
- 3. この改正会則は昭和44年11月9日から施行する。(昭和44年11月9日改正)
- 4. この改正会則は昭和47年11月3日から施行する。(昭和47年11月3日改正)
- 5. この改正会則は昭和50年3月1日から施行する。(昭和49年10月27日改正)

細則1号 慶弔規程

昭和50年4月15日制定

第1条 (目 的)

この規程は本会会員の慶弔等に際しこの贈与について定める。

第2条 (種 別)

正会員若しくは特別会員が下記の各号の一つに該当する時は当該各号に定められた金額を贈与する。

一 正会員が死亡の場合 弔慰金 3,000円

二 母校教官又は職員が死亡の場合

弔慰金 金額は下表による。

母校勤続年数	教 官	職 員
2年未満	0円	0円
2年以上5年未満	3,000	0
5年以上10年未満	5,000	3,000
10年以上	10,000	5,000

三 母校教官又は職員が定年退官の場合

祝金 金額は下表による。

母校勤続年数	教 官	職 員
2年未満	0円	0円
2年以上5年未満	5,000	0
5年以上10年未満	10,000	3,000
10年以上	30,000	5,000

四 母校教官又は職員が転出又は、中途退官の場合

饗別金—金額は下表による。

母校勤続年数	教 官	職 員
2年未満	0円	0円
2年以上5年未満	3,000	0
5年以上10年未満	5,000	3,000
10年以上	10,000	5,000

五 その他、特に同窓会に功労のあった者の金額については理事会の決定による。

附 則

- 1 本規程は昭和50年4月15日より施行する。

同窓会資料

同窓会会員数

(昭和51年9月20日現在)

クラス	卒業生数	死亡者数	3年以上在籍者	現会員数
M1	84	1		83
M2	79			79
M3	70			70
M4	79			79
M5	74			74
M6	75	1		74
M7	69			69
M8	81			81
M9	71			71
M10	68			68
計	750	計2		計 748

E1	36			36
E2	42			42
E3	38	1		37
E4	38	1		37
E5	40			40
E6	36			36
E7	39			39
E8	43			43
E9	37			37
E10	36			36
計	385	計2		計 383

C1	36	1		35
C2	35			35
C3	30	1	2	31
C4	28			28
C5	34			34
C6	34			34
計	197	計2	計2	計 197

M	750	2		748
E	385	2		383
C	197	2	2	197
計	1,332	計6	計2	計1,328





# 同窓会業務日誌

年月日	会 議	内 容
(42年度)		
42年 1～2月	同窓会設立準備委員会	設立趣意書、会則案、役員候補人選
3月20日(月)	同窓会発足	
6月25日(日)	第1回役員会	役員顔合せ及び活動基本方針の決定
7月15日(土)		住所録作成の為に会員住所の照会
8月25日(金)		仮名簿作成及び配布
9月24日(日)	第2回役員会	当面の活動方針の確認及び懇親会開催の基本案作成、会則改正案
10月8日(日)		学校長に同窓会への協力を要請、了解を得る。
11月12日(日)	第3回役員会	会誌編集の具体案審議、会則改正案審議
11月19日(日)		第1回懇親会開催の原案作成
11月22日(水)		母校運営委員会にて本同窓会が正式に承認される。
11月26日(日)		懇親会準備
43年 1月2日(火)	第1期卒業生懇親会開催	(於 静岡 魚磯)
1月28日(日)	第1回会誌編集会議	
2月11日(日)	第2回 " "	
3月5日(火)		同窓会費受入の為に郵便振替口座開設
3月7日(木)	第3回会誌編集会議	
3月10日(日)	第4回 " "	
3月30日(土)		昭和42年度決算
(43年度)		
5月15日(水)		第1回総会案内状発送
6月23日(日)	第1回(43年度)定期総会及び茶話会	於 母校 会則改正
"		同窓会誌 創刊号発行
6月30日(日)		第1回総会の報告書発送
9月1日(日)		同窓会誌2号の原稿依頼状発送(会員へ)
9月11日(水)		" " (母校へ)
10月10日(水)		同窓会費未納者への督促状及び会誌2号の原稿依頼状再度発行
44年 3月下旬		昭和44年度会員名簿発行
(44年度)		
11月9日(日)	第2回(44年度)定期総会	於 母校 約50名出席
		会則改正
45年 3月30日(月)		同窓会報告書発送
(45年度)		
4月	第1回理事会	
(46年度)		
46年 7月		46年度会員名簿発行
9月		46年度役員候補人選
10月	第1回理事会	" 役員選出
11月		事務その他新役員に引継
47年 3月20日(月)		卒業式当日、新卒者へ同窓会についての説明会

(47年度)		
3月22日(水)	第1回理事会	役員顔合せ、今後の活動方針
3月29日(水)	第2回 "	47年度新役員選出
		46年度決算報告書
		活動基本方針決定
		母校校長に同窓会への協力を依頼
		総会準備委員会及び会則補正委員会発足
		顧問教官決定
4月10日(月)		
4月19日(水)	第3回理事会	
5月10日(水)	第4回 "	
		総会準備委員会及び会則補正委員会
5月25日(水)	第5回理事会	顧問教官との懇談会「とん吉」
6月1日(水)	第6回 "	総会日程、会則改正について
6月7日(水)	第7回 "	"
6月14日(水)	第8回 "	総会概文作成の件、会則改正について
6月22日(水)	第9回 "	概文印刷完了、会費徴収方法について
6月28日(水)	第10回 "	総会概文等郵送準備
6月29日(水)		概文発送
7月5日(水)	第11回理事会	同窓会名簿発送準備
7月12日(水)	第12回 "	会誌2号発行について
7月20日(水)		同窓会名簿発送
9月13日(水)	第13回理事会	総会開催計画、方針決定
9月20日(水)	第14回 "	総会までの日程
10月5日(水)	第15回 "	
10月12日(水)	第16回 "	総会準備計画決定
10月23日(月)	第17回 "	総会議案書準備
10月30日(月)	第18回 "	総会準備、当日担当者確認
11月1日(水)		母校創立10周年記念式典に代表者列席
11月3日(金)	第3回(47年度)定期総会	(母校創立10周年記念)
		47年度予算決定
		会則改正
		総会終了後の事務整理
		三役、理事、顧問懇談
48年 1月18日(水)	第21回 "	母校父兄会よりの寄付金受入について
1月25日(水)	第22回 "	定年退職教官への祝金について
		会則配布について
2月1日(水)	第23回 "	同窓会だより発行について基本案決定
2月15日(水)	第24回 "	" " 原稿回収
		卒業予定者への同窓会説明会案作成
		母校視聴覚教室にて卒業予定者に同窓会に関する説明
2月16日(金)	同窓会説明会	
3月19日(月)	第25回理事会	
3月20日(火)		同窓会だより発行
		母校卒業式に際し、新卒業生に同窓会だより配布
3月22日(水)		会員に同窓会だより配布
(48年度)		
4月16日(月)	第1回理事会	48年度活動計画
		48年度予算案作成
		新理事確認
4月27日(金)	第2回 "	48年度役員顔合せ
		各委員会設置

	10月16日(火)		名誉会長 土井静雄先生から桶口泉先生に交替 (母校校長交替)
	11月5日(月)	第3回理事会	同窓会だより3号発行について 今後の活動について
49年	1月14日(月)	第4回 "	第4回総会開催について
	2月1日(金)	第5回 "	第4回総会議案準備 次期三役候補確認 卒業予定者への同窓会説明会について
	2月8日(金)	第6回理事会	
	2月20日(木)	同窓会説明会	卒業予定者
	2月25日(月)	第7回理事会	
	3月15日(金)	第8回 "	
	3月16日(土)	第4回(48年度)定期総会	(於 母校) 決算報告, 49~50年度三役選出
	3月20日(木)	母校第8回卒業式	三役出席
<hr/>			
(49年度)	4月		49年度顧問決定
	4月22日(月)	緊急理事会	前名誉会長故土井静雄先生葬儀参列の件
	5月20日(月)	第1回理事会	新旧役員, 顧問顔合せ, (於 松乃寿司)
	6月21日(金)	第2回 "	49年度~50年度活動計画, 行事計画, 役員連絡網作成
	6月26日(木)	第1回三役打合せ会	49~50年度監事決定
	7月2日(火)	第3回理事会	新旧三役打合せ一財産引継, 会費問題検討
	7月6日(土)		同窓会だより3号編集案作成 会費制度検討
	7月9日(火)	第1回同窓会だより3号編集委員会	母校校長へ御礼, 挨拶懇談, 編集案, 日程案作成, 会費制度の検討
	7月16日(火)	第2回三役打合せ会	
	7月17日(木)	第4回理事会	
	7月29日(月)	第5回 "	
	8月20日(火)	第6回 "	
	8月27日(火)	第7回 "	同窓会だより3号校正
	8月31日(土)	第3回三役打合せ会	運営細則の件, 総会招待範囲検討
	9月1日(日)		同窓会だより3号発行 同窓会だより3号編集委員会解散
	9月5日(木)	第8回理事会	会則改正案作成 第5回(49年度)定期総会日程決定 同窓会だより4号編集委員会発足 名簿担当理事決定 慶弔見舞規程作成委員会発足
	9月18日(木)	第1回同窓会だより4号編集委員会	編集案, 製作日程案作成
	9月27日(金)	第9回理事会	同窓会だより4号について 総会準備
	10月5日(土)	第4回三役打合せ会	48年度決算及び49年度予算案原案作成 48年度収支決算了承報告
	10月8日(火)	第10回理事会	49年度収支予算案決定 名簿の整理

	10月14日(月)		母校教官職員に総会招待状配布
	10月17日(木)	第11回理事会	総会当日の分担決定
	10月19日(土)		母校へ総会で使用する物件の借用申込
	10月24日(木)	第5回三役打合せ会	会則改正案否決時の49年度予算代案原案作成
	10月27日(日)	第5回(49年度)定期総会	会則改正, 収支予算, 収支決算報告
	10月31日(木)	第2回同窓会だより4号編集委員会	名簿整理
	11月5日(火)	第3回同窓会だより4号編集委員会	原稿収集
	11月11日(月)	第4回同窓会だより4号編集委員会	原稿整理
	11月14日(木)		同窓会だより4号について印刷所と打合せ
	11月18日(月)	第12回理事会	同窓会だより4号発行を中止し, 同窓会誌4号とする。
	11月20日(水)		同窓会誌4号原稿出稿
	12月5日(木)	第13回理事会	同窓会誌4号校正
	12月15日(日)		同窓会誌4号発行 同窓会誌4号編集委員会解散
	12月16日(月)		同窓会誌4号発送
	12月18日(水)	第14回理事会	総会及び会誌4号, だより3号についての反省会
50年	1月16日(木)	第6回三役打合せ会	支部設置について
	1月23日(木)	第15回理事会	支部設置について
	2月17日(月)	第7回三役打合せ会	49年度卒業予定者への同窓会説明会について
	2月19日(水)	同窓会説明会	卒業予定者へ同窓会説明会
	3月14日(金)	第8回三役打合せ会	
	3月20日(土)	母校第9回卒業式	会長, 事務長出席
<hr/>			
(50年度)	4月15日(火)	第1回理事会	50年度行事計画決定 慶弔見舞規程決定
	4月20日(日)		5年中退同窓会入会希望者の入会を承認
	5月14日(木)	第2回理事会	新旧理事及び三役顔合せ 49年度会計収支決算及び会計監査
	5月26日(月)	第1回三役打合せ会	同窓会誌5号発行について 同窓会誌5号編集委員会発足 次期三役候補について 役員増について 役員連絡網再編成
	5月27日(火)	第3回理事会	役員連絡網作成 支部設置について 役員増について
	6月18日(木)	第4回理事会	理事会組織について
	7月1日(火)	第1回同窓会誌5号編集委員会	原稿依頼
	7月15日(火)	第5回理事会	同窓会誌5号原稿整理
	7月22日(火)	第2回同窓会誌5号編集委員会	原稿収集
	7月25日(金)	第6回理事会	同窓会誌5号印刷所へ原稿出稿
	8月12日(火)	第7回 "	" " 版下校正
	8月19日(火)	第8回 "	" " 版下校正
	9月4日(木)	第9回 "	第6回(50年度)定期総会について
	9月6日(土)		母校へ総会で使用する物件について借用申込 同窓会誌5号発行

9月15日(月)		同窓会誌5号編集委員会解散
9月16日(火)	第10回理事会	50年度予算案原案作成
10月4日(土)	第2回三役打合せ会	49年度収支決算報告
10月8日(火)	第11回理事会	50年度予算案作成
		総会議案書作成
		51～52年度三役候補者内定
		総会準備
10月16日(木)	第12回理事会	総会の反省
10月25日(土)	第6回(50年度)定期総会	同窓会だより4号について
11月18日(火)	第13回理事会	会員あて名変更分訂正作業
		" "
11月20日(木)		総会及び同窓会活動全般の反省
11月21日(金)		同窓会だより4号原稿を印刷所へ出稿
11月28日(金)	第14回理事会	会員名簿原簿の整理
12月6日(土)		同窓会だより4号版下校正
12月11日(木)	第15回 "	同窓会だより4号発行
12月13日(土)	第16回 "	会員へ発送
12月26日(金)		卒業予定者へ同窓会について説明
51年 2月18日(木)	同窓会説明会	定年退官者の件
3月18日(木)	第17回理事会	会員名簿発行準備について
		次期三役との顔合せ
		会員名簿発行準備
3月24日(木)		"
3月25日(木)		"
3月26日(金)		"
<hr/>		
(51年度)		
4月16日(金)	新旧役員懇談会	新旧役員、顧問懇談
4月21日(木)	新旧役員引継会	
4月27日(火)	第1回理事会	51年度行事計画
		51～52年度監事任命
		新理事確認
		母校校長との懇談会
5月1日(土)		母校学生との懇談会について
5月13日(木)	第2回理事会	名簿調査カード発送
5月23日(日)	第1回三役打合せ会	母校学生との懇談会の件
5月25日(火)		同窓会誌6号発行の件
6月2日(木)	第3回理事会	名簿整理
		資料収集
6月16日(木)	第4回 "	名簿整理
6月24日(木)	第1回同窓会誌6号編集委員会	名簿原稿出稿
6月27日(日)		母校5年生と卒業生との就職に関する懇談会出席
6月30日(木)	第5回理事会	
7月3日(土)		
7月5日(月)	第2回同窓会誌6号編集委員会	
7月12日(月)	第3回 " "	
7月19日(日)	第4回 " "	
7月26日(月)	第5回 " "	

8月4日(木)	第6回理事会	名簿第1回校正
8月11日(木)	第7回 "	名簿第1回校正
8月26日(木)	第8回 "	名簿第2回校正
9月8日(木)	第9回 "	名簿第3回校正
9月9日(木)	第10回 "	名簿第3回校正
9月10日(金)	第11回 "	名簿第3回校正
9月12日(日)		会誌第1回校正
9月13日(月)	第12回理事会	"
9月18日(土)	第13回理事会	会誌第2回校正

### 沼津高専同窓会設立趣意書

昭和42年3月20日

我々第一回卒業生は、卒業とともに西に東に袂を分ち、それぞれの人生の道を進むわけであるが、5年の歲月、共に学んだ機縁は一生にわたって消えることはない。また今後毎年3月には後輩が続々と我々の後につづいて、この学舎を巣立っていくのであるから、沼津高専全卒業生の団結をはかり、相互の間また母校と連絡のとれる体制が必要である。

ここに第1回卒業生の責務として、卒業と同時に、同窓会を設立し、来年度以降毎年卒業する後輩に参加を要請する次第である。



# 檄文

## 同窓会の充実に関心を寄せ

### 母校10周年記念を期して「総会」に集まろう!!

沼津高専同窓会々員諸兄、ますますご健闘のことと大慶に存じます。

さて、わが母校沼津高専も、本年はいよいよ創立十周年のときとなり、われわれ卒業生も、六期、約八百名を数えるにいたりしました。

まさに、わが同窓会が、その基礎を定着させ、本格的な充実をはかるべき好機であると痛感して止みません。

吾々幹事役の者は、本年四月より毎週数名づつで母校に会し、本会の現状と今後について何彼と積極的な検討談合をかさねて居りますが、さいわい母校側でも、会の重要性にかんがみその発展充実を期待して、校務の一端或いは理事会の要請に応じ、主として、木戸、組岡、川井、柳瀬、村松、市川、柳下(第1期生)の諸教官および高橋(学生課長)伊東(教務係長)の事務官などが、この世話役にあたってくれております。

而して、母校創立十周年記念式典行事が、今秋11月1日より5日ごろまで行なわれるにあたり、その一環として、沼津高専同窓会総会(11月3日、午後2時ごろよりの予定)が開催されることになりました。

ここに、従来にもまして、本格的かつ盛大な総会を計画する次第であります。

つきましては、全会員諸兄、一人でも多く、この総会に参加して下さい。いずれ、正式な案内等はあらためていたすつもりですが、希くは、今のうちから予定し、出来るかぎり万障くり合せの出席準備をしておかれましよう、あらかじめお願いいたします。

すでに、会員名簿も相当に整備され(7月中に発送予定)実質的な会則変更等もはかられつつありますが、すべてはこの来る11月の総会を以て、本来の沼津高専同窓会の意義を発揚し、確実な発展への一步を期したいと思っております。以上、とりあえずお知らせいたします。

では、全会員諸兄よ!来れ、同窓会へ、その総会へ。  
11月3日、なつかしの母校で久方ぶりの再会、再々会、文字通り顔つき合わせて、その昔を、今を、そしてさきざきを、大いに語らい、さんざめき、このひとときにこそ、同窓のよしみ以て心のきずなを、しかと結び合おうではありませんか。

われら、ただ待ち上げます。

昭和47年6月22日

沼津工業高等専門学校同窓会

昭和47年度 会長 鞠子 誠  
副会長 中村誠一  
事務長 水上重徳  
理事 木ノ内倫弘  
" 細井道泰  
" 大地喜久  
" 小池洋三  
" 望月俊一  
" 風間隆太郎  
" 小野 薫  
" 加藤昌裕  
" 小川吉晴  
" 堀井常雄  
" 大沢幸一  
" 坂井徳尚  
" 石黒俊一  
" 大城 清

同窓生各位

## 今までの収支決算報告書 (42年度～49年度)

1. 収入の部		
同窓会費	500円×120名	60,000
懇親会会費残高より繰入れ		4,570
雑収入		4,325
預金利子		454
	計	69,349
2. 支出の部		
同窓会誌	300部	43,000
仮名簿送付代		2,985
通信費		4,370
同窓会印代		1,920
金銭出納簿		100
	計	52,375
3. 差引現在高		69,349 - 52,375 = 16,974

1. 収入の部		
同窓会費		131,500
前年度繰越金		16,974
雑収入		2,221
	計	150,695
2. 支出の部		
通信費		14,659
用紙代		750
予備費		5,000
会費払込料		1,160
議事録購入代		80
	計	21,649
3. 差引現在高		150,695 - 21,649 = 129,046

1. 収入の部		
前年度繰越高		129,046
会費(第3回卒業生分)		50,500
終身会費		9,000
雑収入(利息等)		2,519
	計	191,065
2. 支出の部		
通信連絡費		26,810
会議費		16,125
用紙費		3,350
印刷費		9,000
他経費		1,260
	計	56,545
3. 差引現在高		191,065 - 56,545 = 134,520

1. 収入の部		
前年度繰越金		134,520
同窓会費		39,825
預金利息		1,230
	計	175,575
2. 支出の部		
謄写版セット		12,300
	計	12,300
3. 差引現在高		175,575 - 12,300 = 163,275

1. 収入の部		
前年度繰越金		163,275
同窓会費		83,220
雑収入		1,626
	計	248,121
2. 支出の部		
用紙代		3,900
	計	3,900
3. 差引現在高		248,121 - 3,900 = 244,221

# 10年間の会則の変遷

S. 42. 3. 20制定

同窓会発足時より昭和43年6月23日までの会則

## 沼津工業高等専門学校同窓会会則

- 第1条 本会は沼津工業高等専門学校（以下沼津高専と称する）同窓会と称する。
- 第2条 本会は会員相互の連絡、親睦と、母校との連絡をはかり、工業技術振興に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会の事務所は沼津市におく。
- 第4条 本会の会員は次の2種とする。  
正会員  
特別会員
- 2 正会員は沼津高専卒業生とする。  
3 特別会員は沼津高専現および元教職員とする。
- 第5条 本会に次の役員をおく。  
名誉会長 沼津高専校長  
会長 1名  
副会長 1名  
幹事 若干名  
監事 2名
- 2 役員は総会において選挙する。  
3 会長は本会を代表し、会務を総括する。  
4 副会長は会長を補佐し、会長不在のときは、その職務を代行する。  
5 幹事は会務を分担執行する。  
6 監事は会計監査をする。  
7 役員は任期は1箇年とする。但し、再選をさまたげない。  
8 本会に顧問をおく。顧問は特別会員の中から母校において選任する。  
(註) 顧問は当分の間役員業務に対し、必要に応じ協力する。
- 第6条 本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。  
一 会員名簿原簿の作成保管。  
二 会誌および会員名簿の発行配布。  
三 その他必要な事業。
- 第7条 本会の会議は次の通りとする。  
総会 年1回沼津市において行う。  
必要に応じて臨時総会を開くことができる。

- 役員会 必要に応じ随時開く。
- 2 総会においては次の事項を行う。  
事業に関する報告と審議。  
決算および予算に関する審議。  
役員改選。  
会則変更に関する審議。  
その他必要な事項。
- 第8条 本会の経費は普通会費または終身会費ならびに寄付金を以てする。  
2 正会員は次の普通会費または終身会費を納入する。  
普通会費 毎年500円  
終身会費 5000円  
3 本会の会計年度は4月に始まり翌年3月に終る。
- 第9条 本会の正会員は住所または勤務先変更の都度、本会の事務所に連絡する。
- 第10条 本会則は総会出席人員の3分の2以上の同意により変更することができる。
- 附則 本会則は昭和42年3月20日から実施する。
- 申合せ事項**
1. 本会は第1回卒業生の卒業式終了と同時に、自動的に発効する。  
2. 本会則は発足に当って制定したものであって、会員の増加その他事情の変化により逐次改正する。  
3. 本会の事務所は母校と協議の上、決定する。決定するまでの正会員から本会に対する連絡は昭和41年度第5学年学級担任教官あてに行う。  
4. 第1次の役員に限り、総会の選挙によらず、第1回卒業生の申合せによって定める。  
5. 昭和42年度内の事業としては、役員会開催、同窓会誌第1号と名簿の発行配布を行う。  
6. 第1回総会は昭和43年度に行う。  
昭和42年度役員  
会長 木ノ内倫弘（東芝機械）  
副会長 村松 正敏（富士写真フィルム）  
幹事 平野 一男（富士ロビン）

47年度収支決算報告 (S47.4.1 - S48.3.31)

1. 収入の部	
前年度繰越	244,221
会費・利息	405,892
寄金・祝儀	103,000
7期生会費	516,000
小計	1,269,113
2. 支出の部	
会議費・通信費	208,710
総会費等	146,545
祝儀等	142,400
小計	497,655
48年度へ繰越し	771,458

48年度収支決算報告 (S48.4.1 - S49.3.31)

1. 収入の部	
前年度繰越	771,458
会費・利息	154,841
8期生会費	648,000
小計	1,574,299
2. 支出の部	
会議費・通信費	71,810
総会費等	115,840
祝儀等	100,000
小計	287,650
49年度へ繰越し	1,286,649

49年度収支決算報告 (S49.4.1 - S50.3.31)

1. 収入の部	
前年度繰越金	1,286,649
(現金)	39,375
郵便振替貯金	16,225
銀行預金	1,231,049
会費(終身会費のみ)	2,220,000
受取利息	25,433
寄附金	5,100
小計	3,537,182
総会懇親会会計より繰入	53,635
合計	3,590,817
2. 支出の部	
会議費	89,031
通信費	255,240
事務用品費	27,750
慶弔費	27,000
機関誌費(合同窓会だより)	393,000
雑費	10,000
新聞図書費	1,850
郵便振替手数料	6,950
印刷費	7,000
旅費交通費	1,570
什器備品購入費	6,000
未払金支払	3,500
総会懇親会会計へ繰出金	80,000
小計	908,891
次年度繰越金	2,681,926
(現金)	252,854
郵便振替貯金	693,050
銀行預金	1,736,022
合計	3,590,817

### 貸借対照表

昭和50年3月31日現在

資産の部		負債及び基金の部	
流動資産	8,301,926	流動負債	1,335,000
現金	252,854	未払金	10,000
郵便貯金	693,050	前受金	1,325,000
銀行預金	1,736,022	基金	6,982,179
未収金	5,620,000	基金	240,000
固定資産	15,253	固定資産基金	15,253
什器備品	15,253	減価償却引当金	12,247
		剰余金	6,714,679
合計	8,317,179	合計	8,317,179



漆畑 豊 (東京電気)  
監 事 奥田 温一 (電業社機械製作所)  
小永井正夫 (石原機械)

S. 42. 3. 20制定  
S. 43. 6. 23改正

昭和43年6月23日より昭和44年11月9日までの会則

## 沼津工業高等専門学校同窓会会則

### 第1章 総 則

第1条 本会は、沼津工業高等専門学校同窓会という。  
第2条 本会は、事業所を沼津工業高等専門学校内に置く。

### 第2章 目的および事業

第3条 本会は、会員相互の連絡、親睦と母校との連絡をはかり、工業技術振興に寄与することを目的とする。  
第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行なう。  
1 会員相互の連絡に関する事。  
2 会員名簿の発行に関する事。  
3 会誌等の発行に関する事。  
4 その他必要な事業。

### 第3章 会 員

第5条 本会は、次の会員を以って組織する。  
正 会 員 沼津工業高等専門学校を卒業した者。ならびに同校に3年以上在籍し、理事会の承認を受けた者。  
特別会員 沼津工業高等専門学校の教職員、ならびに理事会で推せんされた旧教職員。

### 第4章 役員および職務

第6条 本会に、次の役員を置く。  
1 名誉会長 1名 会長の諮問に応ずる。  
2 会 長 1名 本会を代表し、会務を総理する。  
3 副会長 1名 会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。  
4 理 事 若干名 理事会を構成し、会務を処理する。  
5 監 事 2名 会計を監査する。  
6 顧 問 若干名 会務に関し、理事会の諮問に応ずる。

### 第5章 役員を選出方法および任期

第7条 会長および副会長は理事会において選出し、総会の承認を受けるものとする。  
2 理事は卒業年次の各科から2名ずつ選出された者および会長の委嘱によるもの若干名とする。  
3 監事は、理事会の推せんにより会長が委嘱する。  
第8条 名誉会長には、沼津工業高等専門学校長を推せんする。  
2 顧問は特別会員の中から理事会が推せんし、会長が委嘱する。  
第9条 役員は任期は2箇年とする。ただし再任を妨げない。  
2 補欠により選任された役員は、前任者の残任期間とする。

### 第6章 会 議

第10条 本会の会議は次のとおりとする。  
1 総 会 会長が召集し、毎年1回開催する。必要に応じ臨時総会を開くことができる。  
2 理事会 会長が必要に応じ随時開催する。  
第11条 次の事項は総会において承認を受けなければならない。  
1 事業計画および収支予算に関する事。  
2 事業報告および収支決算に関する事。  
3 役員を選任に関する事。  
4 会則の改廃に関する事。  
5 その他会務運営に必要な重要事項。

### 第7章 会 計

第12条 本会の経費は、普通会費または終身会費ならびに寄附金をもってあてる。  
第13条 本会の正会員は普通会費または終身会費を納入するものとする。  
普通会費 年額 500円  
終身会費 5,000円  
第14条 本会の会計年度は4月に始まり翌年3月に終る。

### 第8章 支 部

第15条 本会は必要に応じ、理事会の承認を受けて支部を設けることができる。

### 第9章 雑 則

第16条 本会の正会員は、住所、姓名、勤務先等変更の都度、本会の事務所に連絡をするものとする。  
第17条 本会則は総会出席人員の3分の2以上の同意により変更することができる。  
第18条 本会則を施行するに必要な細則は、理事会の議を経て、別に定める。

### 附 則

1 この会則は、昭和42年3月20日から実施する。(昭和42年3月20日制定)  
2 この改正会則は、昭和43年6月23日から施行する。(昭和43年6月23日改正)

## 沼津工業高等専門学校同窓会会則

### 第一章 総 則

第1条 本会は沼津工業高等専門学校同窓会という。

第2条 本会は、本部事業所および支部事業所を置く。本部事業所は沼津工業高等専門学校内に置く。支部事業所は別に定める。

### 第二章 目的および事業

第3条 本会は会員相互の連絡、親睦と母校との連絡をはかり工業技術振興に寄与することを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行なう。

- 1 会員相互の連絡に関する事。
- 2 会員名簿の発行に関する事。
- 3 会誌等の発行に関する事。
- 4 その他必要な事業。

### 第三章 会 員

第5条 本会は次の会員を以って組織する。

- 1 正会員 沼津工業高等専門学校を卒業した者ならびに同校3年以上在籍し理事会の承認を受けた者。
- 2 特別会員 沼津工業高等専門学校の教職員ならびに理事会で推薦された旧教職員。

### 第四章 役員および職務

第6条 本会に次の役員を置く。

- |         |     |
|---------|-----|
| 1 名誉会長  | 1 名 |
| 2 会 長   | 1 名 |
| 3 副 会 長 | 1 名 |
| 4 事 務 長 | 1 名 |
| 5 理 事   | 若干名 |
| 6 監 事   | 2 名 |
| 7 顧 問   | 若干名 |

第7条 役員は次の職務を行なう。

- 1 名誉会長の職務  
会長の諮問に応ずる。
- 2 会長の職務  
イ 本会を代表し会務を総理する。  
ロ 第4条の事業を行なうための必要

に応じて分科委員会を置くことができる。

委員は会長が選出しその職務を委嘱する。

ハ 総会を召集し、必要に応じて理事会、委員会、その他の会議を召集する。

#### 3 副会長の職務

イ 会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。

ロ 会長の置いた委員会を統轄し、その諮問に応ずる。

#### 4 事務長の職務

イ 本会の会計業務を行なう。必要に応じて業務を理事に委嘱することができる。

ロ 年度終了時に決算報告書、予算案を作成する。

#### 5 理事の職務

理事会を構成し、会務を処理する。

#### 6 監事の職務

会計を監査する。

#### 7 顧問の職務

会務に関し、理事会の諮問に応ずる。

### 第五章 役員の選出方法および任期

第8条 会長、副会長および事務長は理事会において選出し総会の承認を受けるものとする。

2 理事は卒業年次の各科から2名ずつ選出された者および会長の委嘱による者若干名とする。

3 監事は理事会の推薦により会長が委嘱する。

第9条 名誉会長には沼津工業高等専門学校長を推戴する。

2 顧問は特別会員の中から理事会が推薦し会長が委嘱する。

第10条 役員の任期は2箇年とする。ただし再任を妨げない。

2 補欠により選任された役員の任期は前任

者の残任期間とする。

### 第六章 支 部

第11条 本会は必要に応じ理事会の承認を受けて支部を設けることができる。

第12条 各支部は本部より業務を委嘱され各々独立して活動を行なう。

第13条 各支部の支部長は会長が選出し、その職務を委嘱する。副支部長その他支部活動に必要な役員は支部長が選出しその職務を委嘱する。

2 支部役員の任期は1箇年とする。但し再任を妨げない。

第14条 総ての会員は当人の意志により自由に当人の所属支部を決めることができる。

2 会員の所属支部の移動は自由であるが、いずれかの支部に必ず所属しなければならない。

第15条 各支部長は次の事柄を年1回本部に提出、報告しその承認を受けなければならない。また会長の要求ある時は直ちにそれを提出しなければならない。

- 1 年度活動計画、活動報告
- 2 年度予算案、決算報告
- 3 支部員名簿

第16条 各支部長は年1回支部総会を召集し開催する。必要に応じ臨時支部総会を開くことができる。

第17条 支部運営費用は支部員数に比例し、本部より支給する。支部長より費用の臨時請求があった時は理事会の承認したものに限り支給する。

### 第七章 会 議

第18条 本会の会議は次のとおりとする。

#### 1 総 会

イ 会長が召集し、毎年1回開催する。必要に応じ臨時総会を開くことができる。

ロ 総会は委任状をも含め、正会員の過半数の出席のあった時に成立する。

ハ 総会における審議事項は出席正会員の過半数の同意を得た時可決される。

ニ 総会における決定事項は直ちに全員に通知しなければならない。

#### 2 支部長会議

イ 会長が召集し毎年1回（5月上旬）開催する。必要に応じ臨時支部長会議を開くことができる。

ロ 支部長会議は本部役員6名各支部役員3名ずつを以って構成する。

ハ 支部長会議は構成人員の3分の2の出席を以って成立する。

ニ 支部長会議においてその年度の同窓会活動方針を決定する。

ホ 支部長会議における審議事項は出席人員の過半数の同意を得た時可決される。

#### 3 理事会

会長が必要に応じ随時設置する。

#### 4 委員会

イ 会長が必要に応じ随時設置する。  
ロ 副会長が委員長となり会長の諮問に応ずる。

第19条 次の事項は総会において承認を受けなければならない。

- 1 事業計画および収支予算に関する事。
- 2 事業報告および収支決算に関する事。
- 3 役員を選任に関する事。
- 4 会則の改廃に関する事。
- 5 その他会務運営に必要な重要事項

### 第八章 会 計

第20条 本会の経費は普通会費または終身会費ならびに寄附金をもってあてる。

第21条 本会の正会員は普通会費または終身会費を納入するものとする。

普通会費	年額	500円
終身会費		5,000円

第22条 本会の会計年度は4月に始まり、翌年3月に終る。

### 第九章 雑 則

第23条 本会の正会員は住所、姓名、勤務先等は変更の都度、本会の支部、事務所連絡しなければならない。連絡を受けた各支部長は直ちに本部事務所に連絡しなければならない。

第24条 本会則は総会出席人員の3分の2以上の同意により変更することができる。

第25条 本会則を施行するに必要な細則は理事会

の議を経て別に定める。

附 則

- 1 この会則は昭和42年3月20日から実施する。  
(昭和42年3月20日制定)
- 2 この改正会則は昭和43年6月23日から施行する。  
(昭和43年6月23日改正)
- 3 この改正会則は昭和44年11月9日から施行する。  
(昭和44年11月9日改正)

S. 42. 3. 20制定  
S. 47. 11. 3改正

昭和47年11月3日より昭和50年3月1日までの会則

### 沼津工業高等専門学校同窓会会則

#### 第一章 総 則

- 第1条 本会は沼津工業高等専門学校同窓会という。
- 第2条 本会は本部を沼津工業高等専門学校内に置く。

#### 第二章 目的および事業

- 第3条 本会は会員相互の連絡、親睦と母校との連絡をはかり、工業技術振興に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行なう。
  - 1 会員相互の連絡に関する事。
  - 2 会員名簿の発行に関する事。
  - 3 会誌等の発行に関する事。
  - 4 その他必要な事業。

#### 第三章 会 員

- 第5条 本会は次の会員を以て組織する。
  - 1 正会員  
沼津工業高等専門学校を卒業した者ならびに同校に3年以上在籍し理事会の承認を受けた者。
  - 2 特別会員  
沼津工業高等専門学校の教職員ならびに理事会で推薦された旧教職員。

#### 第四章 役員および職務

- 第6条 本会に次の役員を置く。
 

1 名誉会長	1 名
2 会 長	1 名
3 副 会 長	1 名
4 事 務 長	1 名
5 理 事	若干名
6 監 事	2 名
7 顧 問	若干名

- 第7条 役員は次の職務を行なう。
  - 1 名誉会長の職務  
会長の諮問に応ずる。
  - 2 会長の職務
    - イ 本会を代表し会務を総理する。
    - ロ 第4条の事業を行なうため、必

要に応じて分科委員会を置くことができる。  
委員は会長が選出し、その職務を委嘱する。  
ハ 総会を召集し、必要に応じて理事会、委員会、その他の会議を召集する。

- 3 副会長の職務
  - イ 会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
  - ロ 会長の置いた委員会を統轄し、その諮問に応ずる。
- 4 事務長の職務
  - イ 本会の会計業務を行なう。必要に応じて業務を理事に委嘱することができる。
  - ロ 年度終了時に決算報告書、予算案を作成する。
- 5 理事の職務  
理事会を構成し、会務を処理する。
- 6 監事の職務  
会計を監査する。
- 7 顧問の職務  
会務に関し、理事会の諮問に応ずる。

#### 第五章 役員の選出方法および任期

- 第8条 会長、副会長および事務長は理事会において選出し、総会の承認を受けるものとする。
- 2 理事は卒業年次の各科から2名ずつ選出された者、および会長の委嘱による者若干名とする。
- 3 監事は理事会の推薦により会長が委嘱する。
- 第9条 名誉会長には沼津工業高等専門学校長を推戴する。
- 2 顧問は特別会員の中から理事会が推薦し会長が委嘱する。
- 第10条 役員は任期は2箇年とする。ただし再任を妨げない。

- 2 補欠により選任された役員の任期は前任者の残任期間とする。

#### 第六章 支部

第11条 本会は理事会の承認を受けて支部を設けることができる。

支部についての規定は別にこれを定める。

#### 第七章 会議

##### 第12条 1 総会

イ 総会は原則として毎年1回これを開催する。

必要に応じ臨時総会を開くことができる。

ロ 総会における審議承認事項は、出席正会員の過半数の同意を得た時可決される。

ハ 総会における決定事項は原則としてこれを全会員に通知する。

##### 2 理事会

会長が必要に応じ随時開催する。

##### 3 委員会

イ 会長が必要に応じ随時設置する。

ロ 副会長が委員長となり、会長の諮問に応ずる。

第13条 次の事項は総会において承認を受けなければならない。

- 1 事業計画および収支予算に関すること。
- 2 事業報告および収支決算に関すること。
- 3 役員の選任に関すること。
- 4 会則の改廃に関すること。
- 5 その他会務運営に必要な重要事項。

#### 第八章 会計

第14条 本会の正会員は入会金および普通会費、または終身会費を納入するものとする。

入会金 500円

普通会費(年額) 500円

終身会費 5,000円

第15条 本会の経費は入会金および普通会費、終身会費、その他をもってこれに当てる。

第16条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日とする。

#### 第九章 雑則

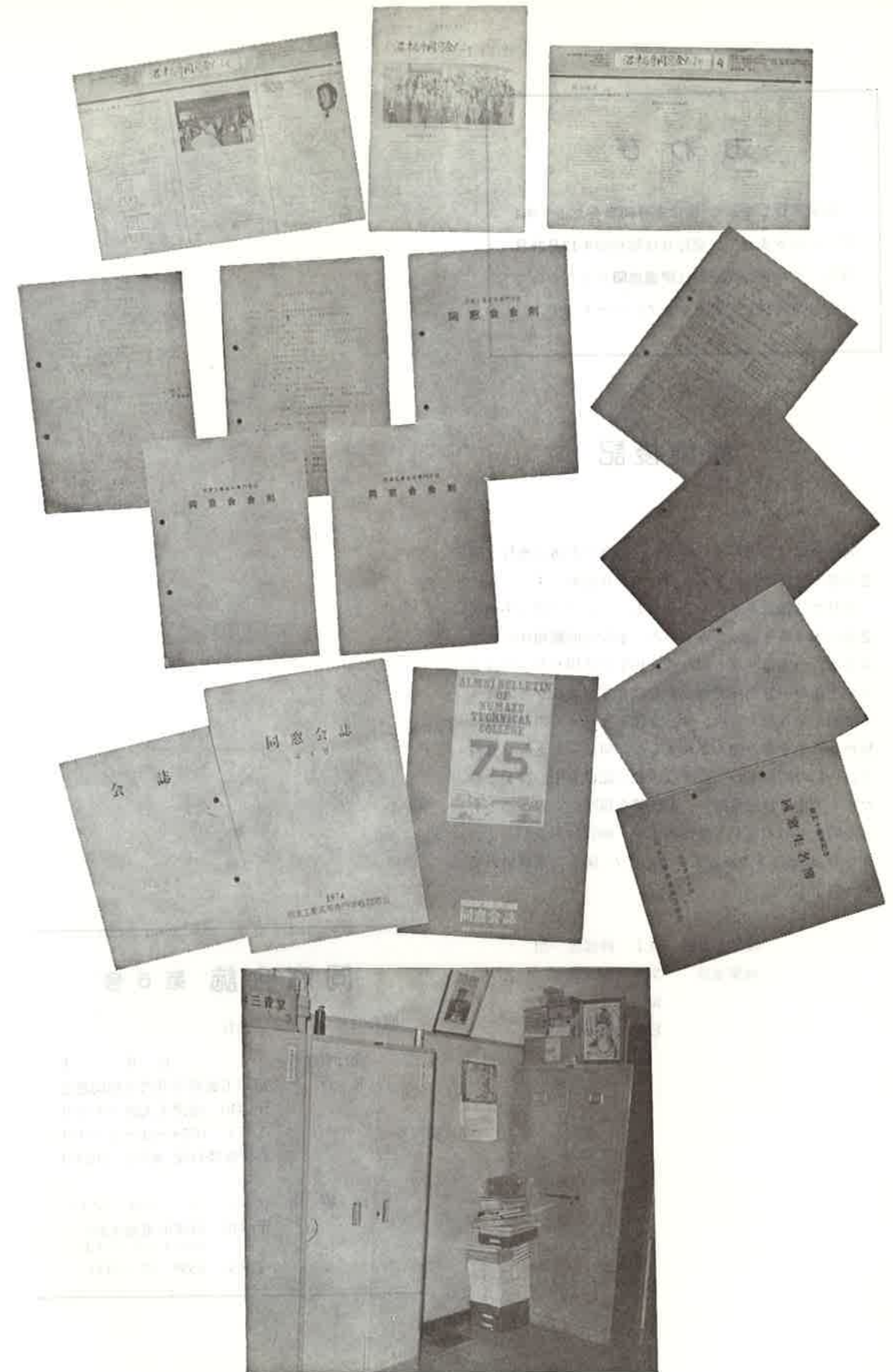
第17条 本会の正会員は住所、姓名、勤務先等の変更に関して、その都度、本部に連絡しなければならない。

第18条 本会則は総会における審議で変更することができる。

第19条 本会則を施行するに必要な細則は理事会の議を経て別に定める。

#### 附則

- 1 この会則は昭和42年3月20日から実施する。  
(昭和42年3月20日日制定)
- 2 この改正会則は昭和43年6月23日から施行する。  
(昭和43年6月23日改正)
- 3 この改正会則は昭和44年11月9日から施行する。  
(昭和44年11月9日改正)
- 4 この改正会則は昭和47年11月3日から施行する。  
(昭和47年11月3日改正)



今までに発行された会誌、名簿、会則、たよりと保存用ロッカー

## おわび

前回発行しました「沼津高専同窓会だより第4号」におきまして、発行日は昭和50年12月26日発行、また発行責任者は伊達忠昭のまらがいでした。お詫びして訂正させていただきます。

## 編集後記

同窓会設立10周年を目前にし、同窓会名簿の発行と同窓会誌の発行で何かと気ぜわしい今日此頃です。

今号では10周年ということもあって、この10ヶ年の同窓会のあゆみを辿ってみました。単なる回顧趣味からではなく、一度振り返ってみて、10年の区切りをつけることが今後の同窓会発展のこやしになるのでは//と気負って取組んでみたものの、たった10年というものが如何に長かったかを思い知らされました。何分にも乏しい資料と、一部の関係者からの聴取、私の記憶を中心にまとめたもので中には記憶違い、不正確な描写から御迷惑をかける向きもあろうかと思いますが、御容赦下さい。

なお、お気付きの点がありましたら、同窓会事務局あて御一報下さい。

編集委員長 M1 跡部恵一郎  
編集委員 M7 杉山高一  
M9 芹沢芳正  
E9 大沼義和

## 同窓会誌 第6号

昭和51年9月25日 発行

発行責任者 白井一夫  
発行所 沼津工業高等専門学校同窓会  
〒410 沼津市大岡3600  
TEL 0559-21-2700  
郵便振替口座 東京2-102151

印刷所 ジャパンコミュニケーション  
〒410 沼津市東熊堂650  
マルトモV3F  
TEL 0559-23-0123